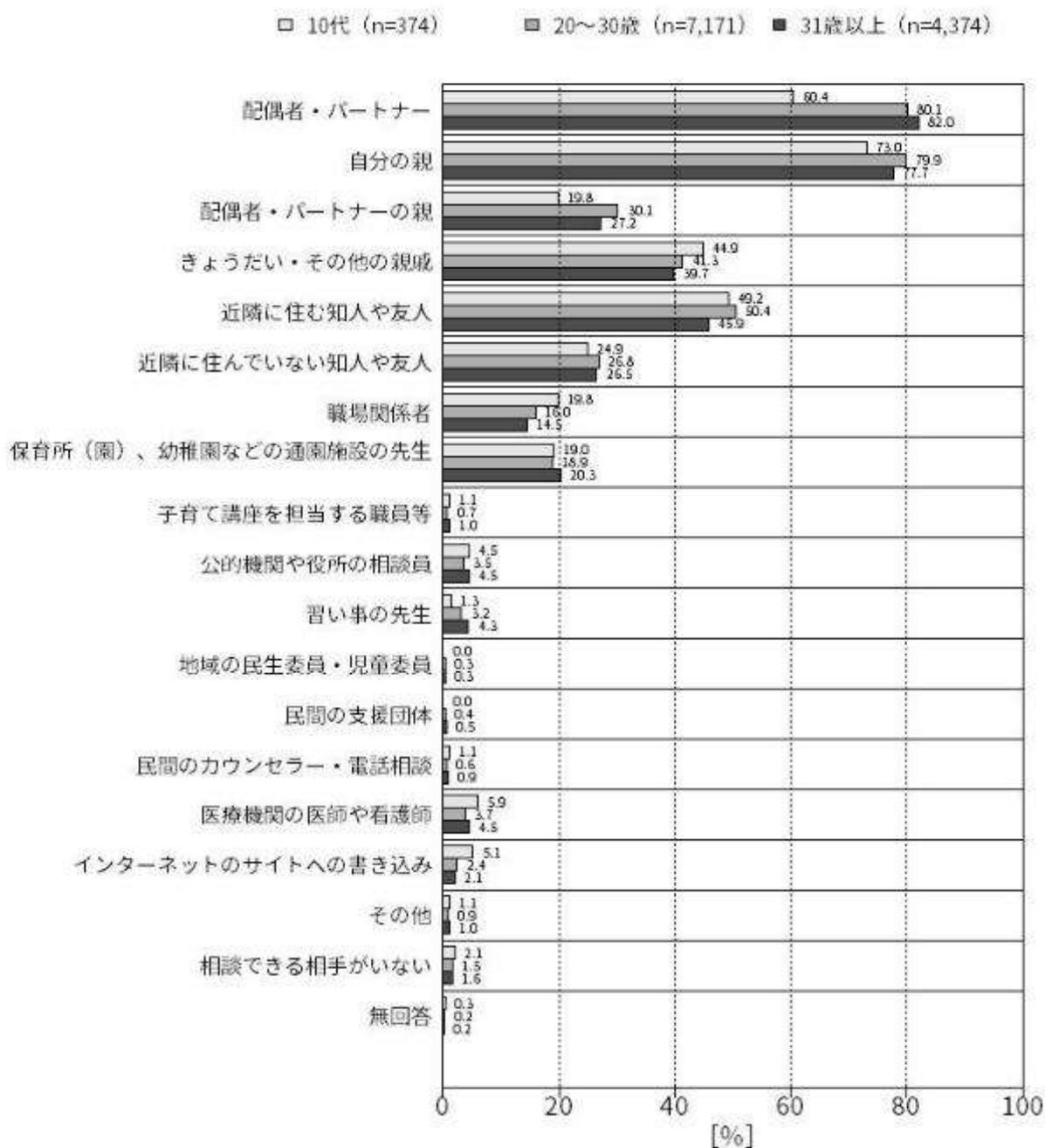


初めて親となった年齢別に見た、相談相手（問 33×問 35）※母親が回答者の場合に限定

<大阪市 24 区>



<大阪市平野区>

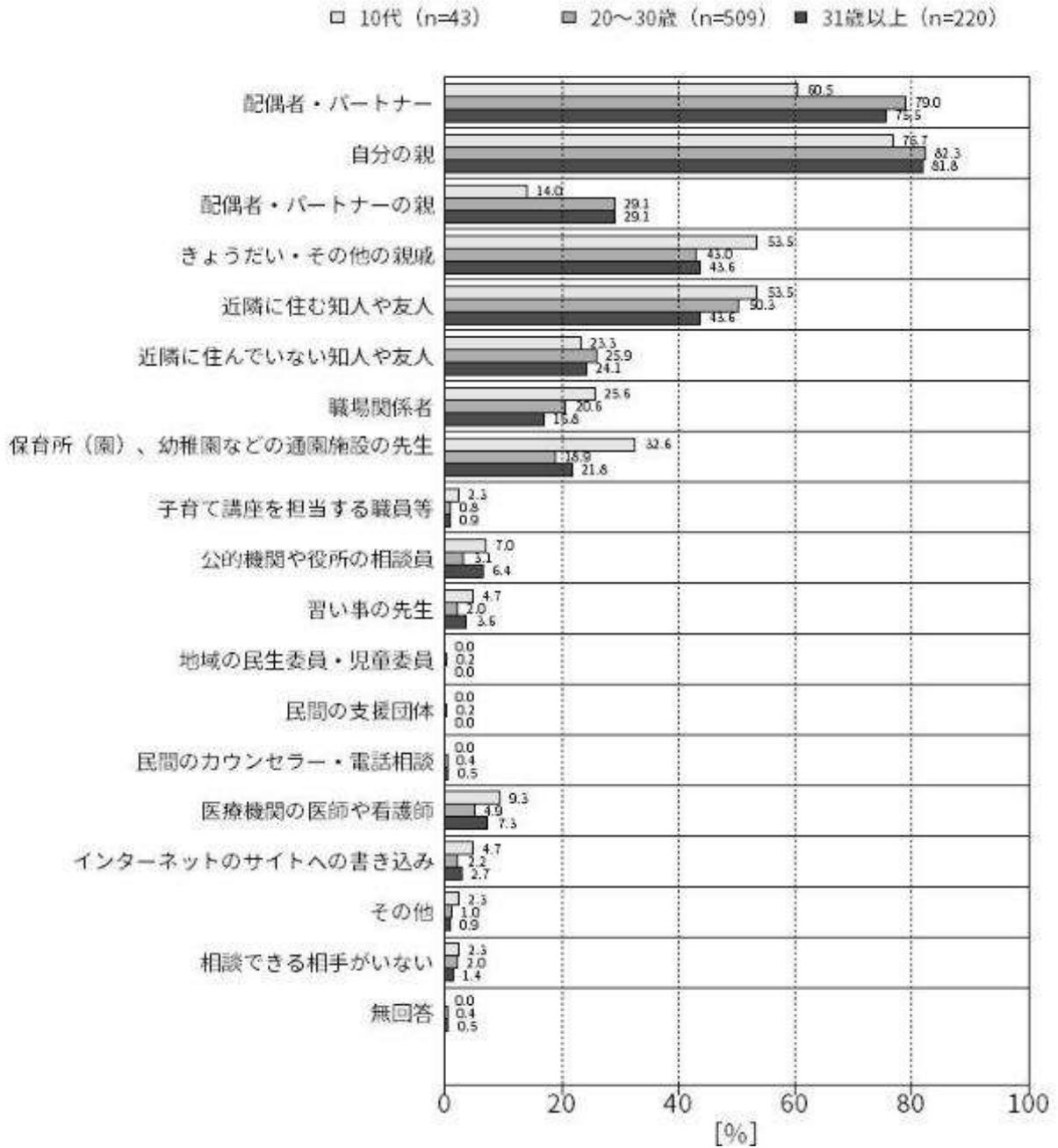


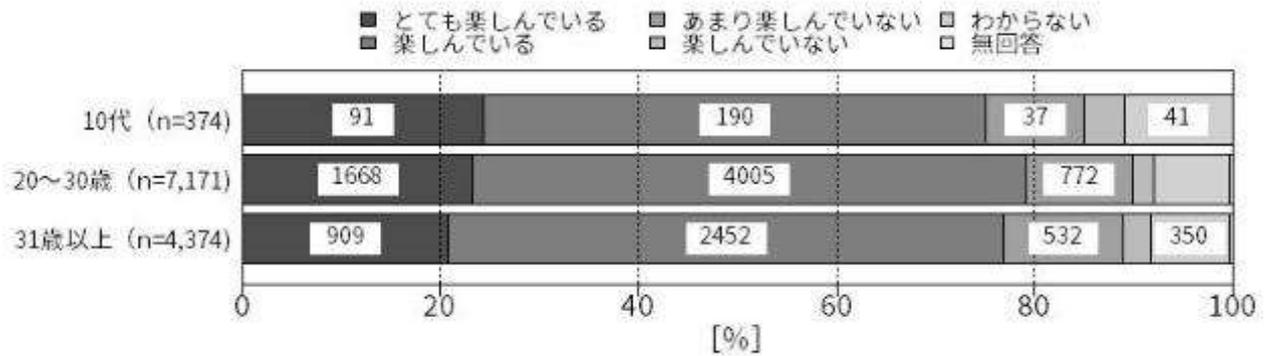
図 104. 初めて親となった年齢別に見た、相談相手

※母親が回答者の場合に限定

10代で出産する人では、「配偶者・パートナー」の割合が低い傾向にあった。

初めて親となった年齢別に見た、心の状態（1）生活を楽しんでいる（問 33×問 36-1）
 ※母親が回答者の場合に限定

<大阪市 24 区>



<大阪市平野区>

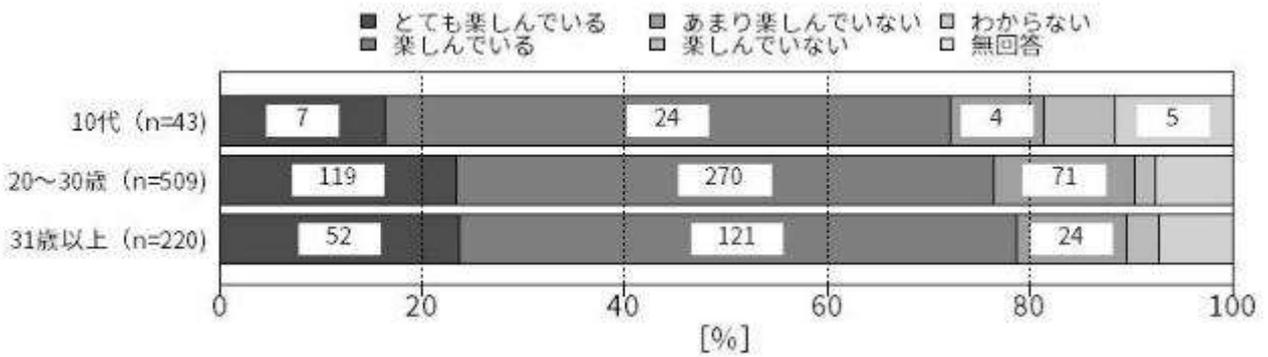


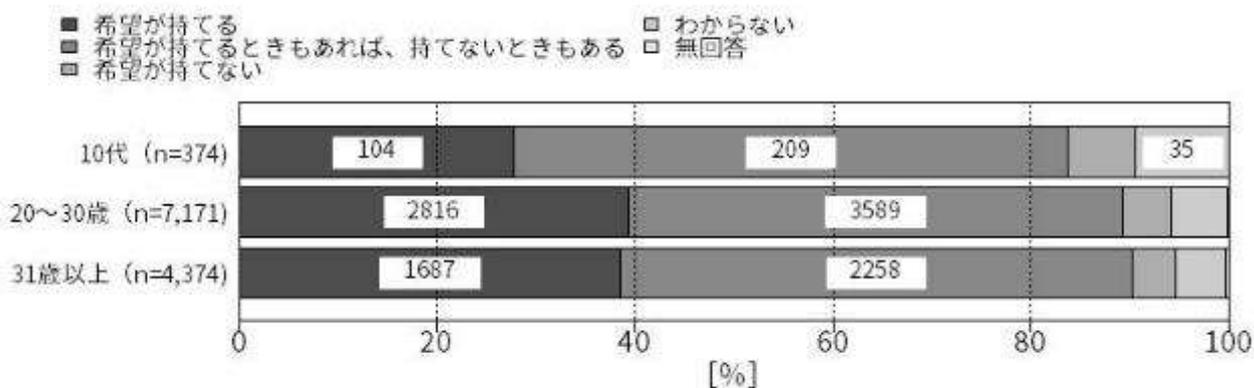
図 105. 初めて親となった年齢別に見た、心の状態（1）生活を楽しんでいる
 ※母親が回答者の場合に限定

10代で出産する人では、他に比べ、「とても楽しんでいる」と回答した割合が低くなっていた。

初めて親となった年齢別に見た、心の状態（2）将来への希望（問 33×問 36-2）

※母親が回答者の場合に限定

<大阪市 24 区>



<大阪市平野区>

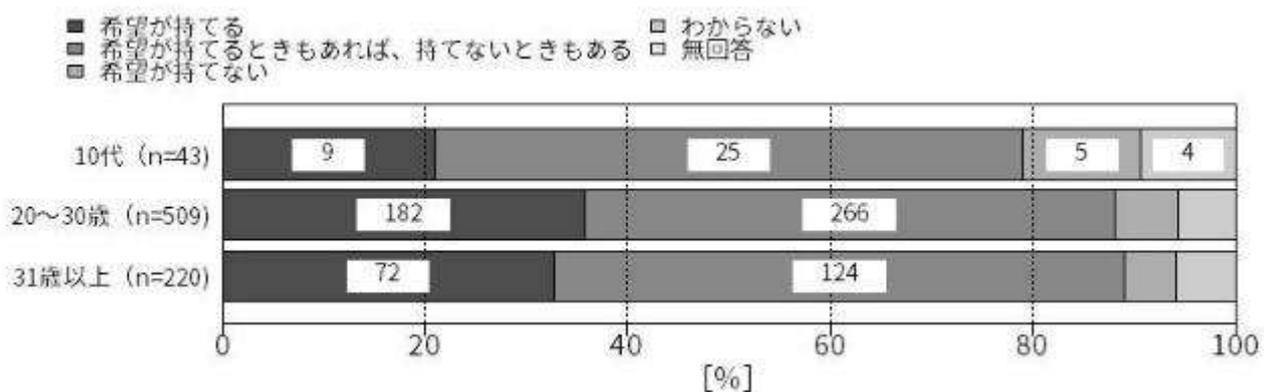
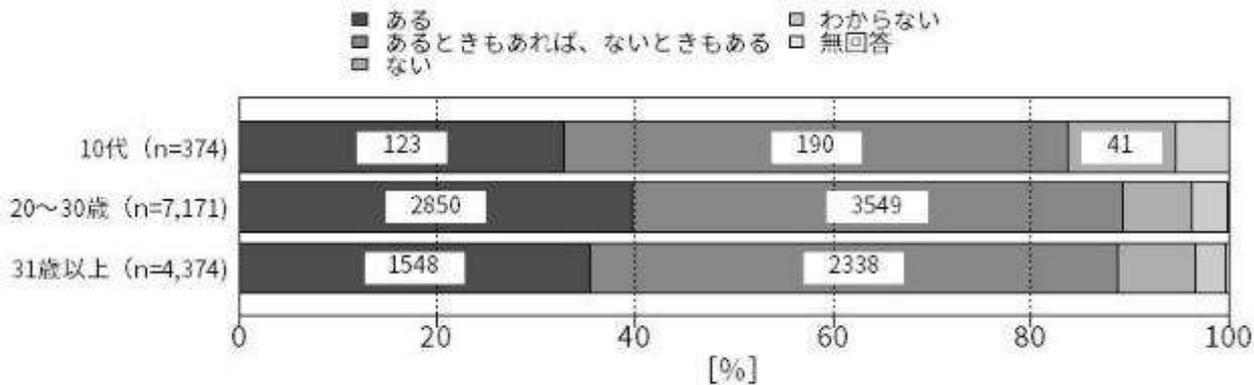


図 106. 初めて親となった年齢別に見た、心の状態（2）将来への希望
 ※母親が回答者の場合に限定

10代で出産する人では、「希望が持てる」と回答した割合が低くなっていた。

初めて親となった年齢別に見た、心の状態（3）ストレス発散できるもの
 （問 33×問 36-3）※母親が回答者の場合に限定

<大阪市 24 区>



<大阪市平野区>

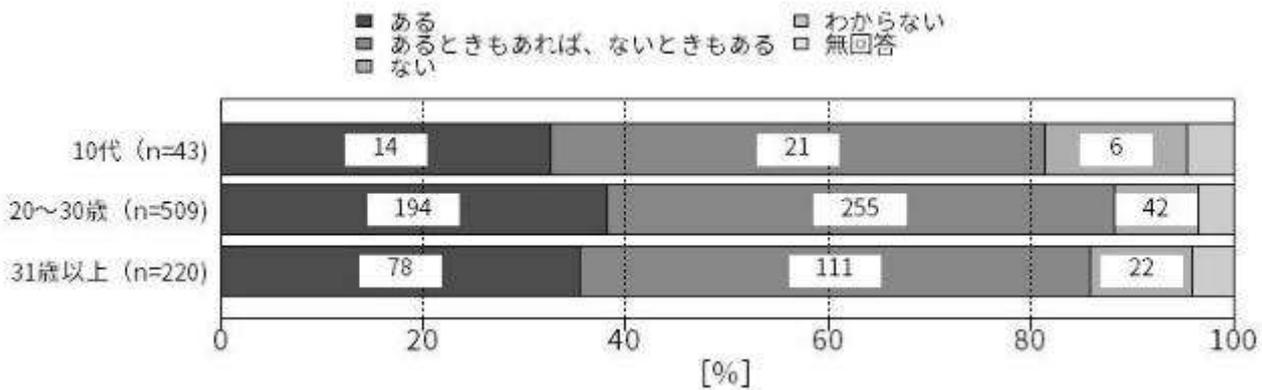
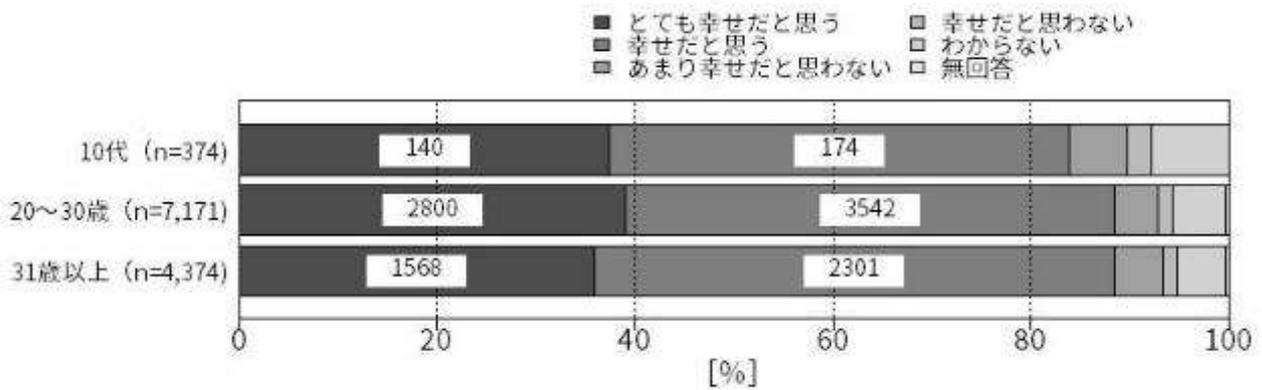


図 107. 初めて親となった年齢別に見た、心の状態（3）ストレス発散できるもの
 ※母親が回答者の場合に限定

10代で出産した群において、ストレス発散できるものが「ない」という回答した割合がわずかに低くなっている。

初めて親となった年齢別に見た、心の状態（４）幸せだと思う（問 33×問 36-4）
 ※母親が回答者の場合に限定

<大阪市 24 区>



<大阪市平野区>

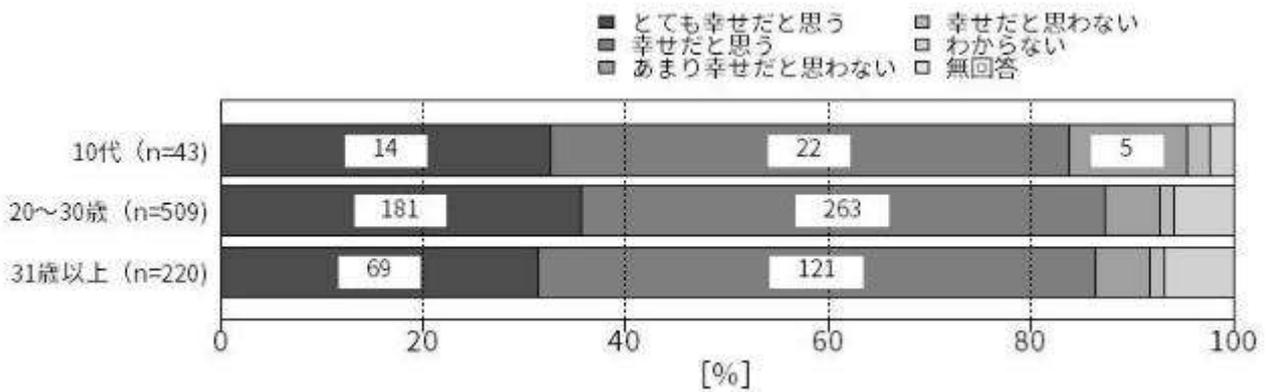


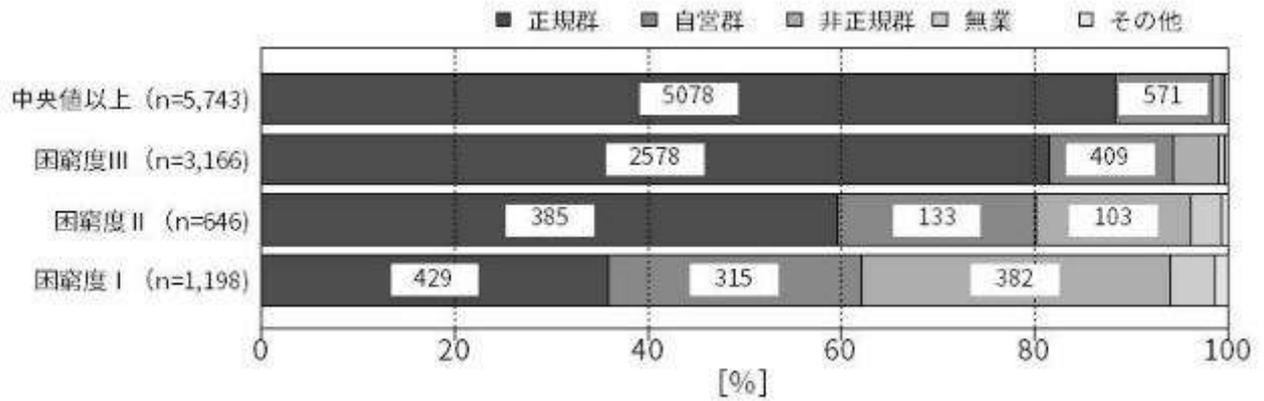
図 108. 初めて親となった年齢別に見た、心の状態（４）幸せだと思う
 ※母親が回答者の場合に限定

出産年齢によって大きな差は見られなかった。

3-2. 雇用

困窮度別に見た、就労状況（問8）

<大阪市 24 区>



<大阪市平野区>

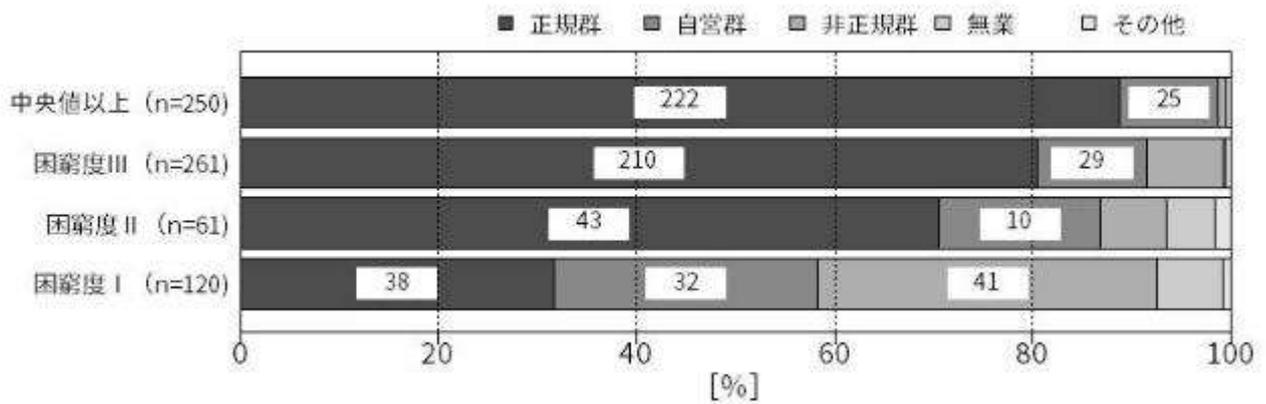
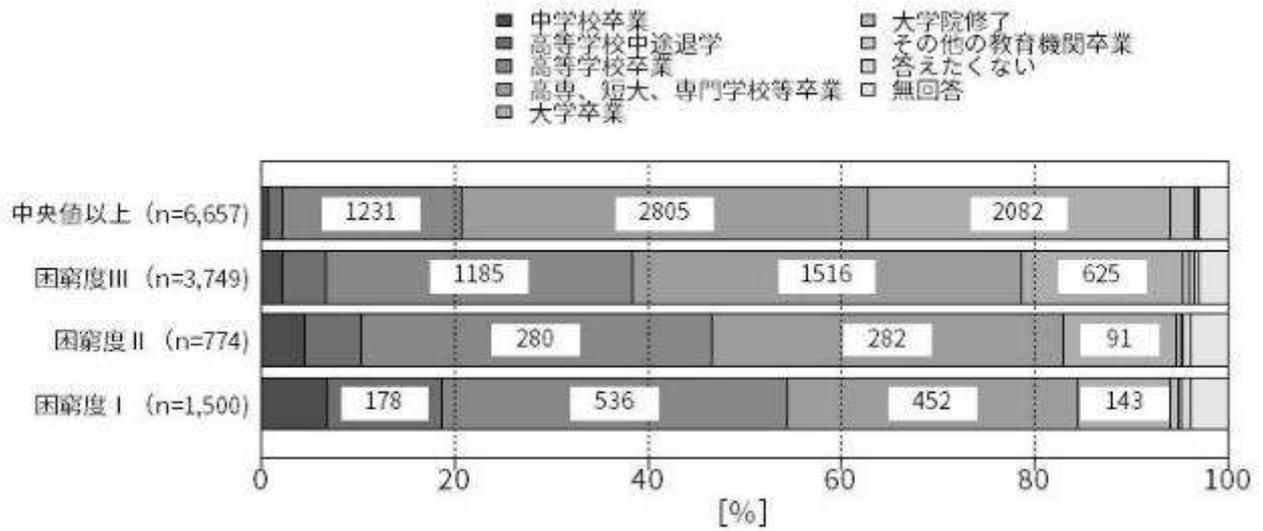


図 109. 困窮度別に見た、就労状況

困窮度が高まるにつれて、正規群の割合が減り、非正規群・自営群の割合が高まる傾向にあった。困窮度Ⅰ群においては、自営群は26.7%、非正規群は34.2%であった。

困窮度別に見た、母親の最終学歴（問7-母）

<大阪市24区>



<大阪市平野区>

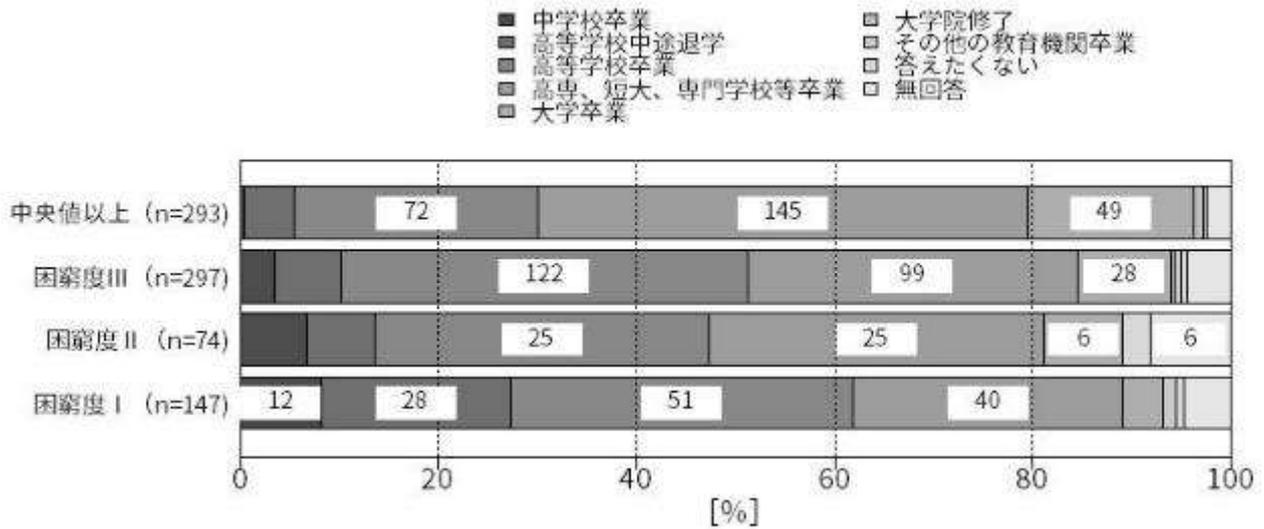
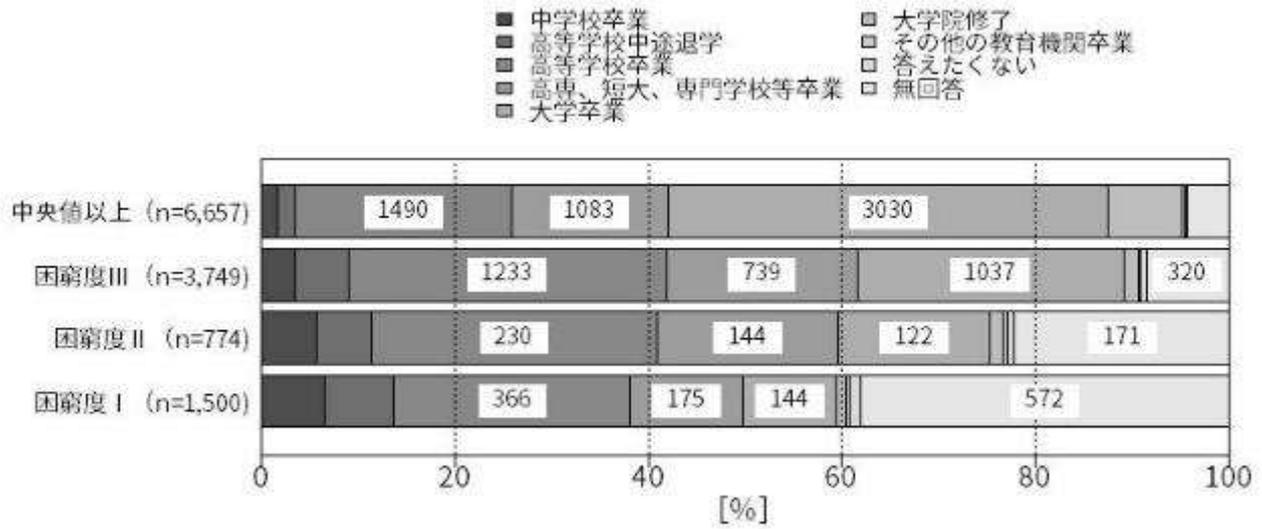


図 110. 困窮度別に見た、母親の最終学歴

困窮度が厳しくなるにしたがって、中卒と高校中退の割合が増える傾向にあった。困窮度が厳しくなるにしたがって、中卒と高校中退の割合が増える傾向にあった。困窮度Ⅰ群で「中学校卒業」は8.2%、「高等学校中途退学」は19.0%であった。

困窮度別に見た、父親の最終学歴（問7-父）

<大阪市24区>



<大阪市平野区>

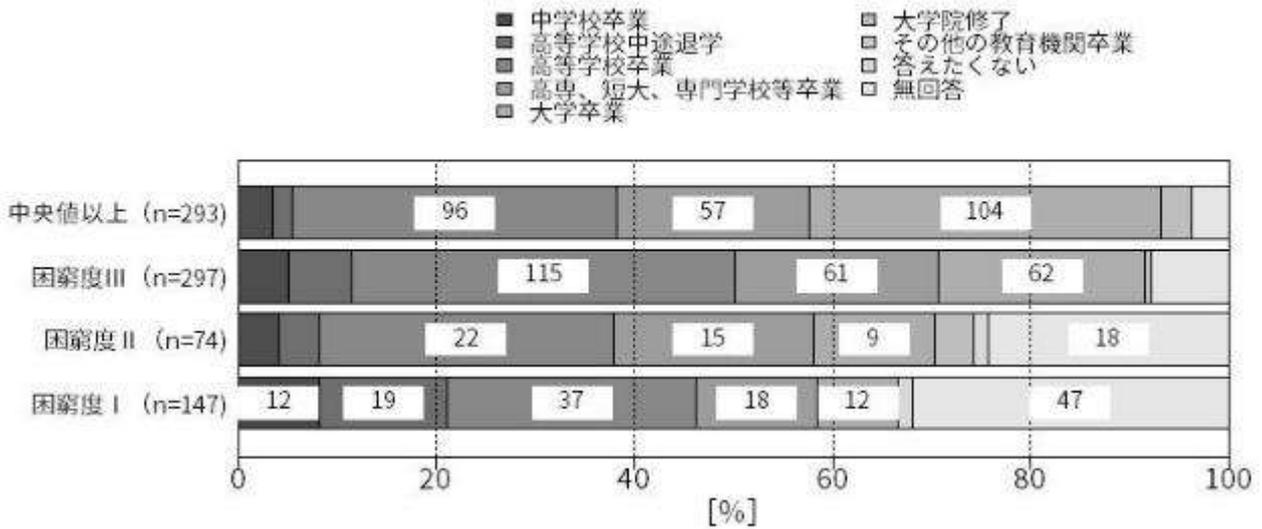
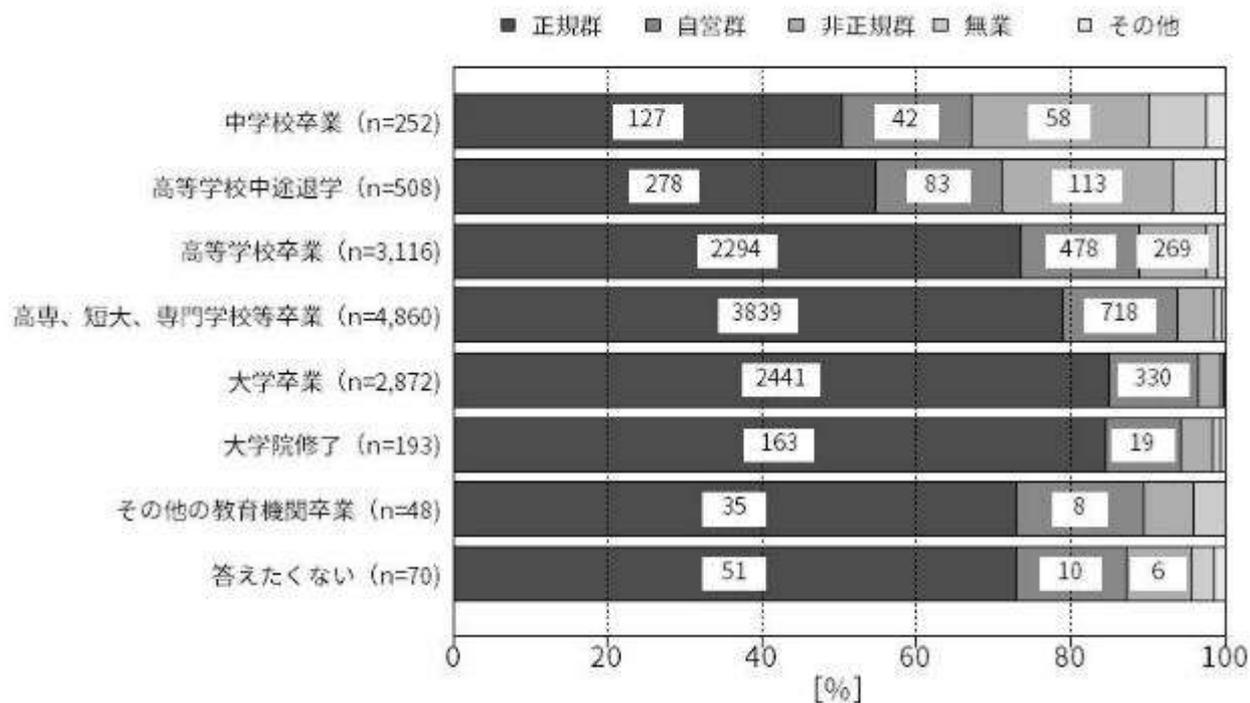


図 111. 困窮度別に見た、父親の最終学歴

困窮度が厳しくなるにしたがって、中卒と高校中退の割合が増える傾向にあった。困窮度が厳しくなるにしたがって、中卒と高校中退の割合が増える傾向にあった。困窮度Ⅰ群で「中学校卒業」は8.2%、「高等学校中途退学」は12.9%であった。

母親の最終学歴別に見た、就労状況（問7×問8）

<大阪市24区>



<大阪市平野区>

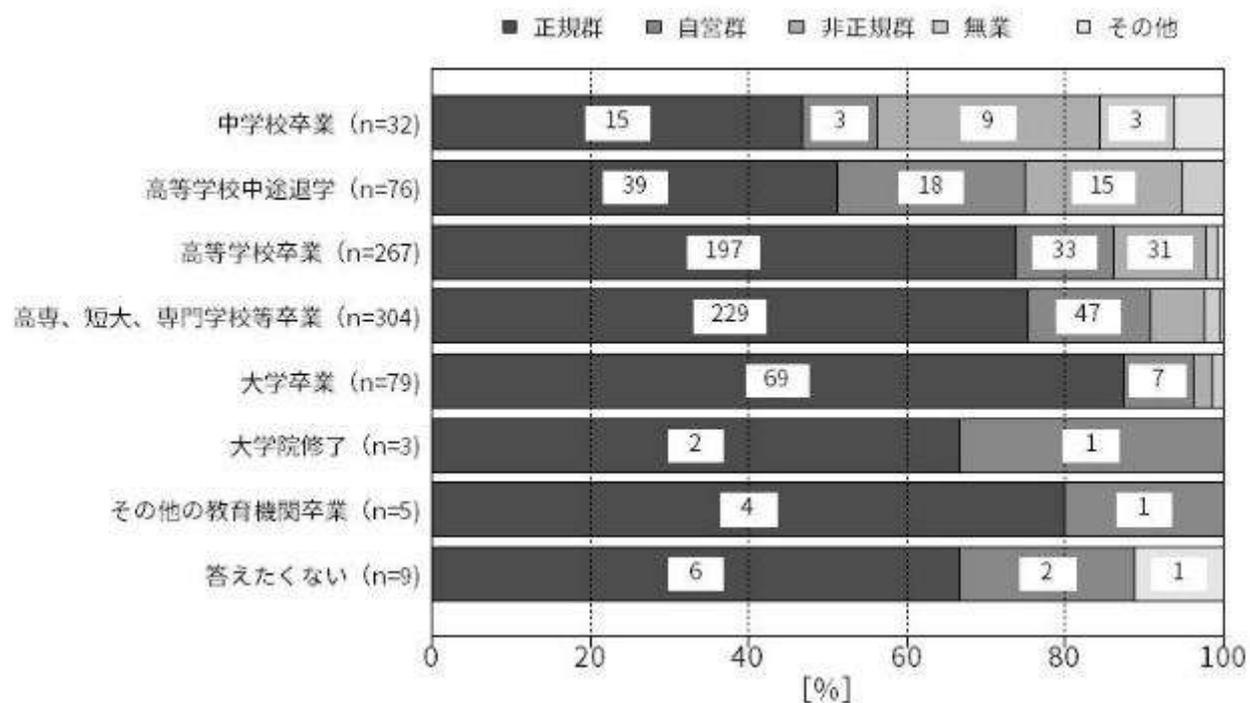
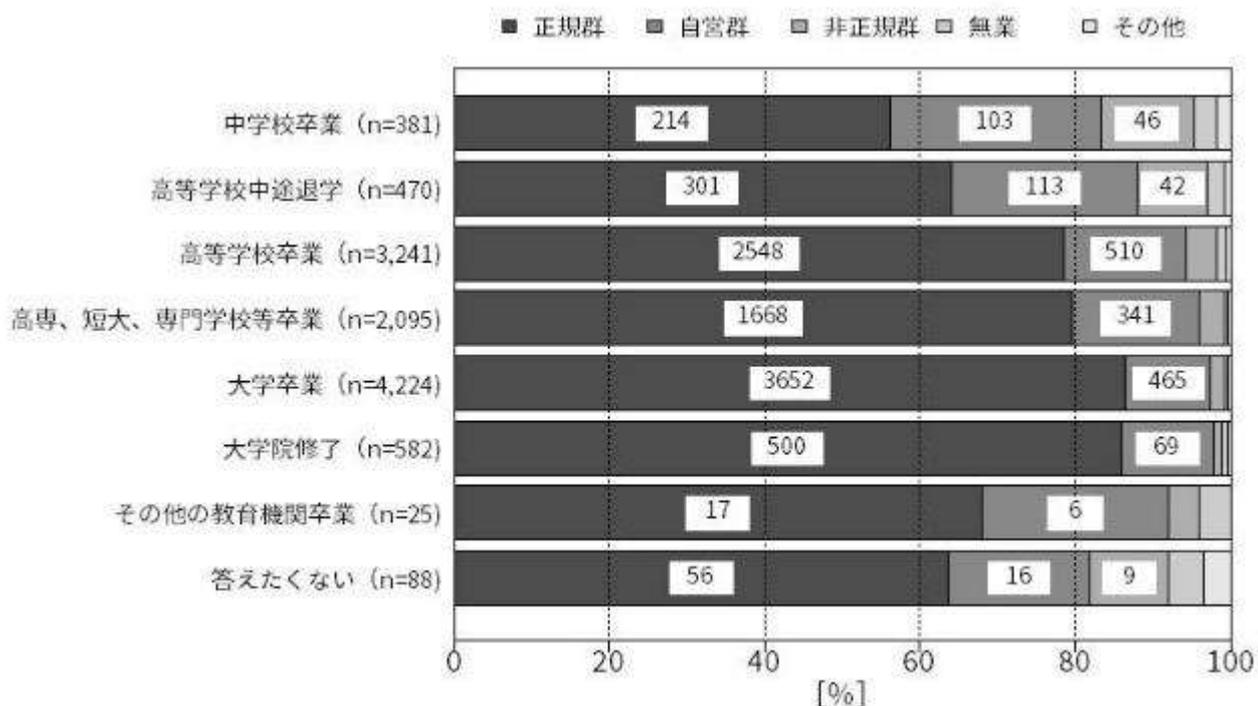


図 112. 母親の最終学歴別に見た、就労状況

中学校卒業では、正規群の割合が少ない傾向にあった。学歴が高いほど、正規群の割合が高く、非正規群の割合が低くなる。

父親の最終学歴別に見た、就労状況（問7×問8）

<大阪市24区>



<大阪市平野区>

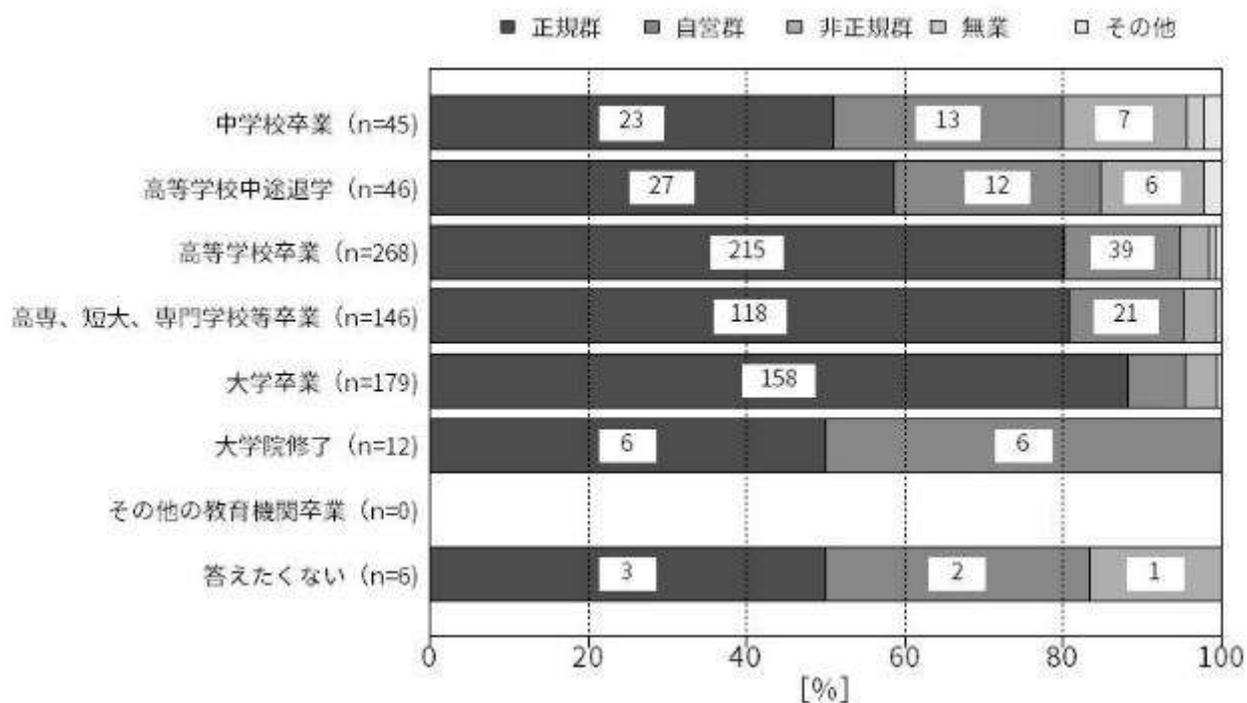
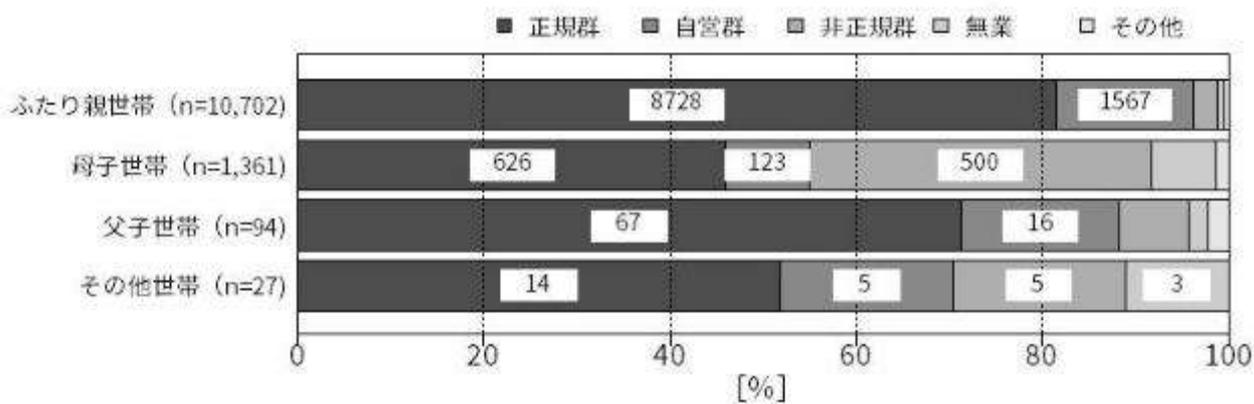


図 113. 父親の最終学歴別に見た、就労状況

中学校卒業では、正規群の割合が少ない傾向にあった。学歴が高いほど、正規群の割合が高く、非正規群の割合が低くなる。

世帯構成別に見た、就労状況（問1×問8）

<大阪市24区>



<大阪市平野区>

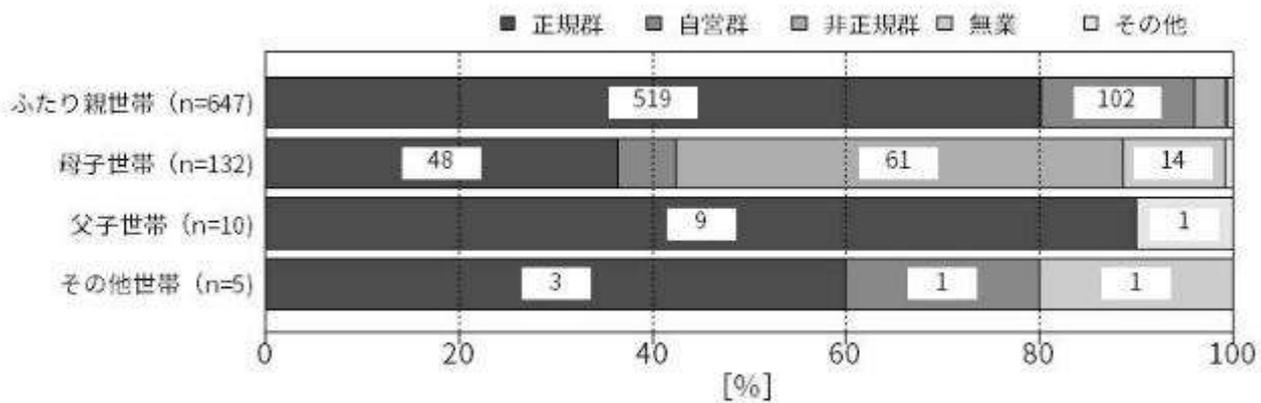
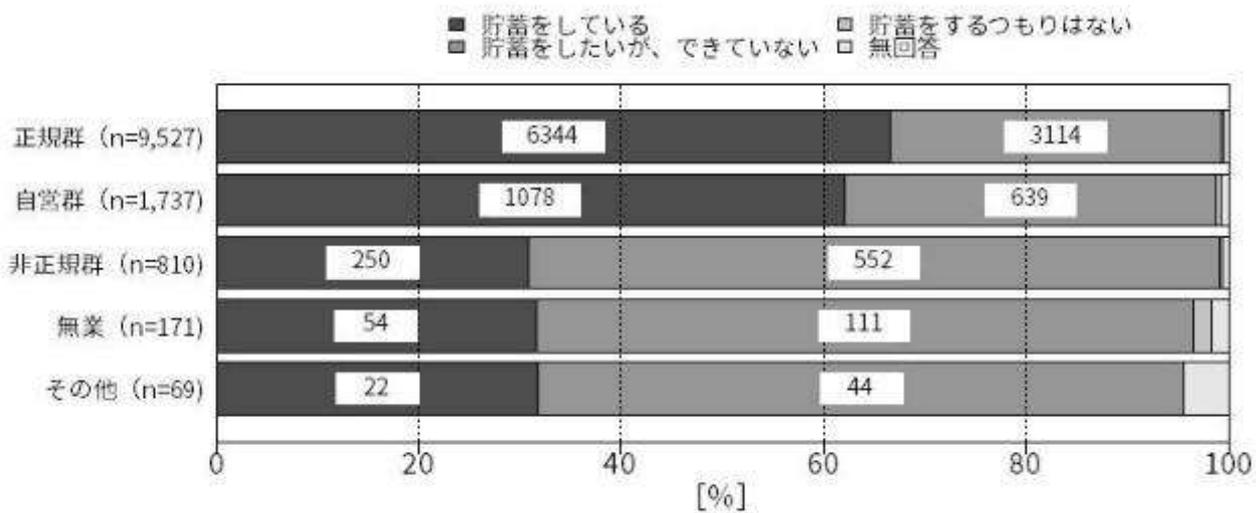


図 114. 世帯構成別に見た、就労状況

ふたり親世帯では、正規群の割合が高かった。母子世帯では、正規群の割合が36.4%であった。

就労状況別に見た、子どものための貯蓄（問 8×問 5-3）

<大阪市 24 区>



<大阪市平野区>

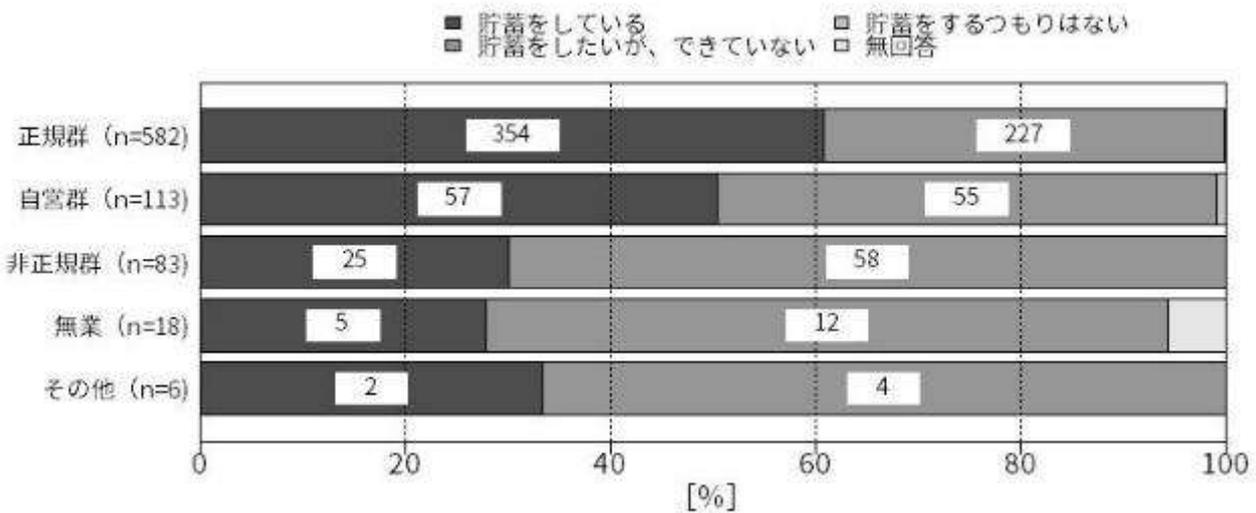
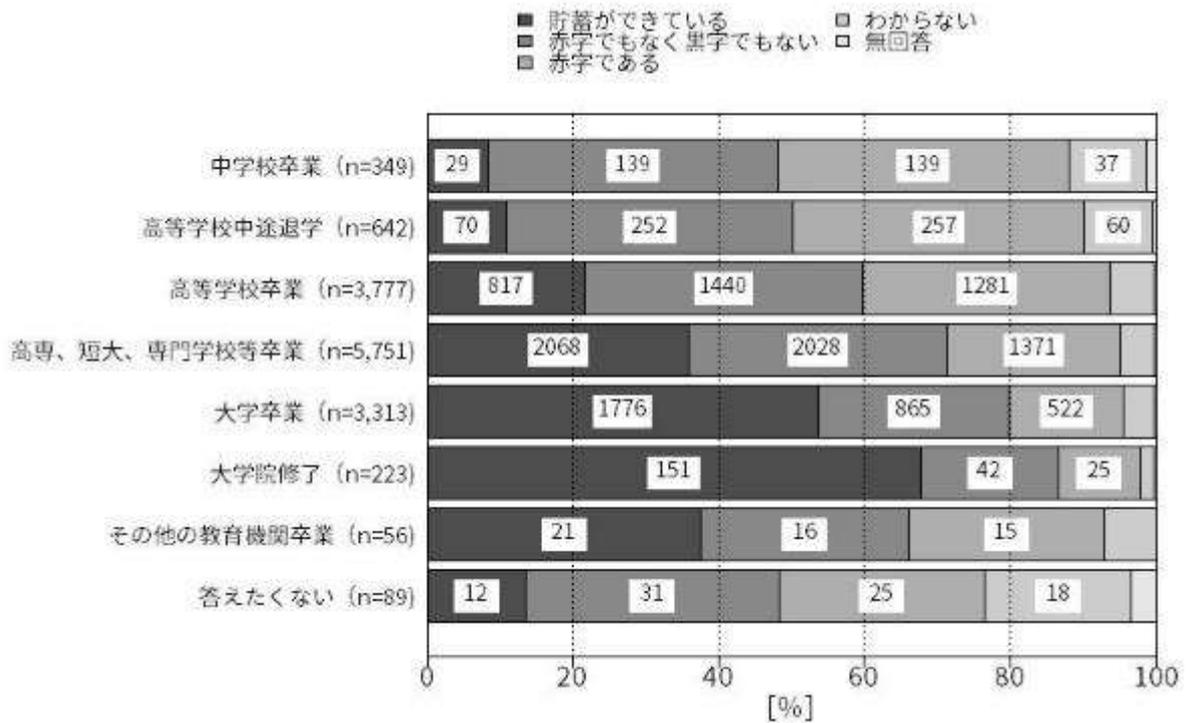


図 115. 就労状況別に見た、子どものための貯蓄

正規群では貯蓄ができていない割合が高く、非正規群・無業では貯蓄ができていない割合が低くなる傾向にあり、それぞれ 30.1%、27.8%であった。

母親の最終学歴別に見た、家計状況（問7×問5-1）

<大阪市24区>



<大阪市平野区>

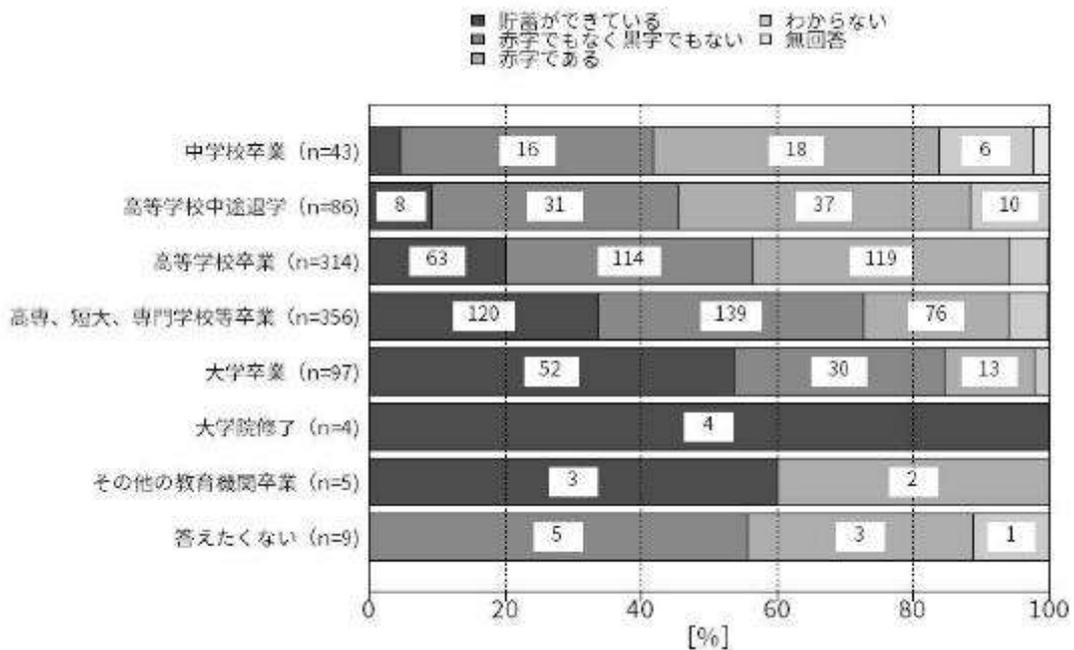
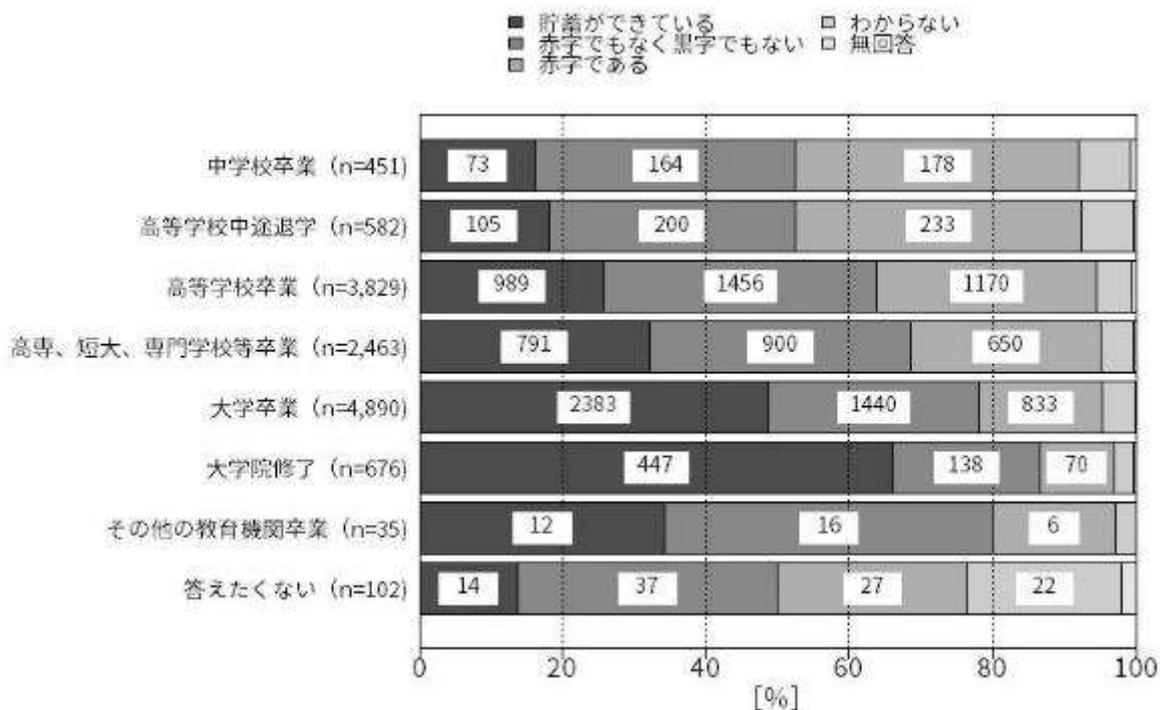


図 116. 母親の最終学歴別に見た、家計状況

中学校卒業、高等学校中途退学では、貯蓄ができていますの割合が低い傾向にあった。学歴が高いほど、貯蓄ができていますの割合が高く、赤字である割合が低くなる傾向にあった。

父親の最終学歴別に見た、家計状況（問7×問5-1）

<大阪市24区>



<大阪市平野区>

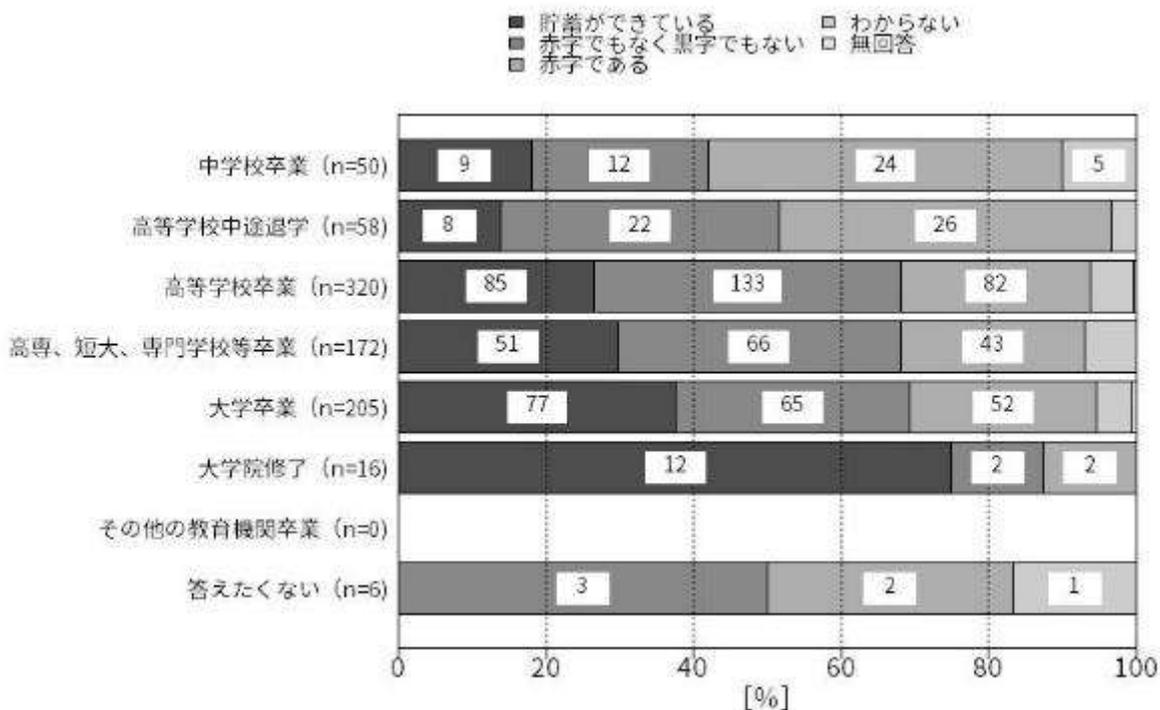
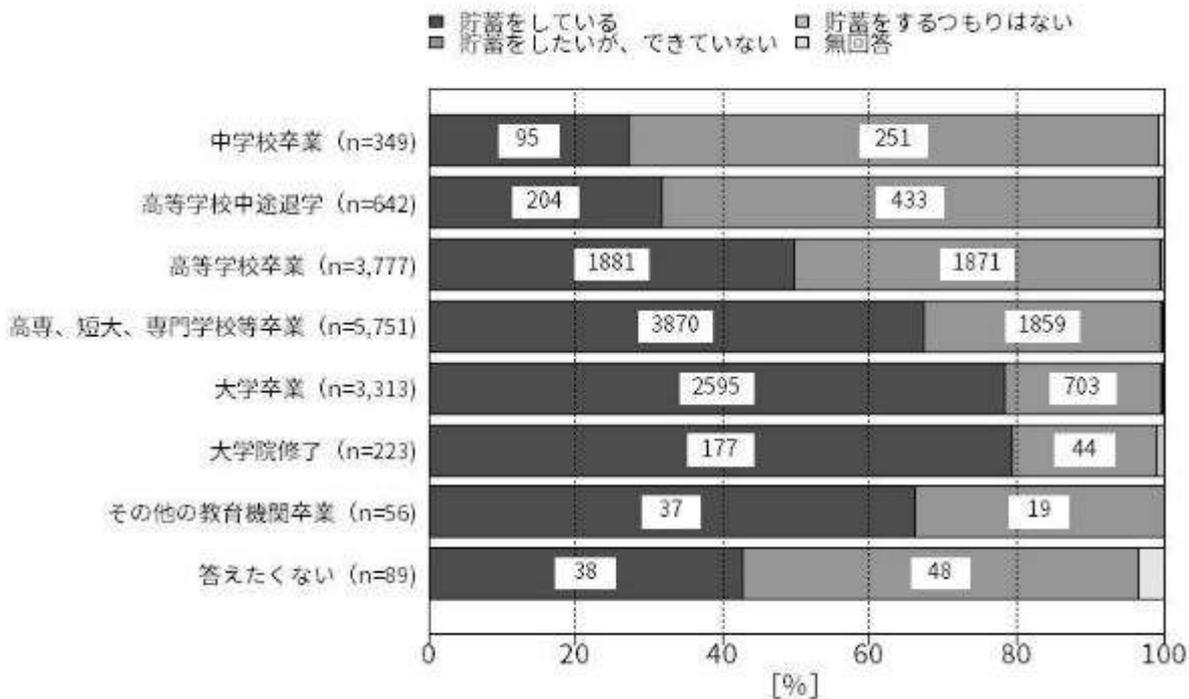


図 117. 父親の最終学歴別に見た、家計状況

中学校卒業、高等学校中途退学では、貯蓄ができていない割合が低い傾向にあった。学歴が高いほど、貯蓄ができていない割合が高く、赤字である割合が低くなる傾向にあった。

母親の最終学歴別に見た、子どものための貯蓄（問7×問5-3）

<大阪市24区>



<大阪市平野区>

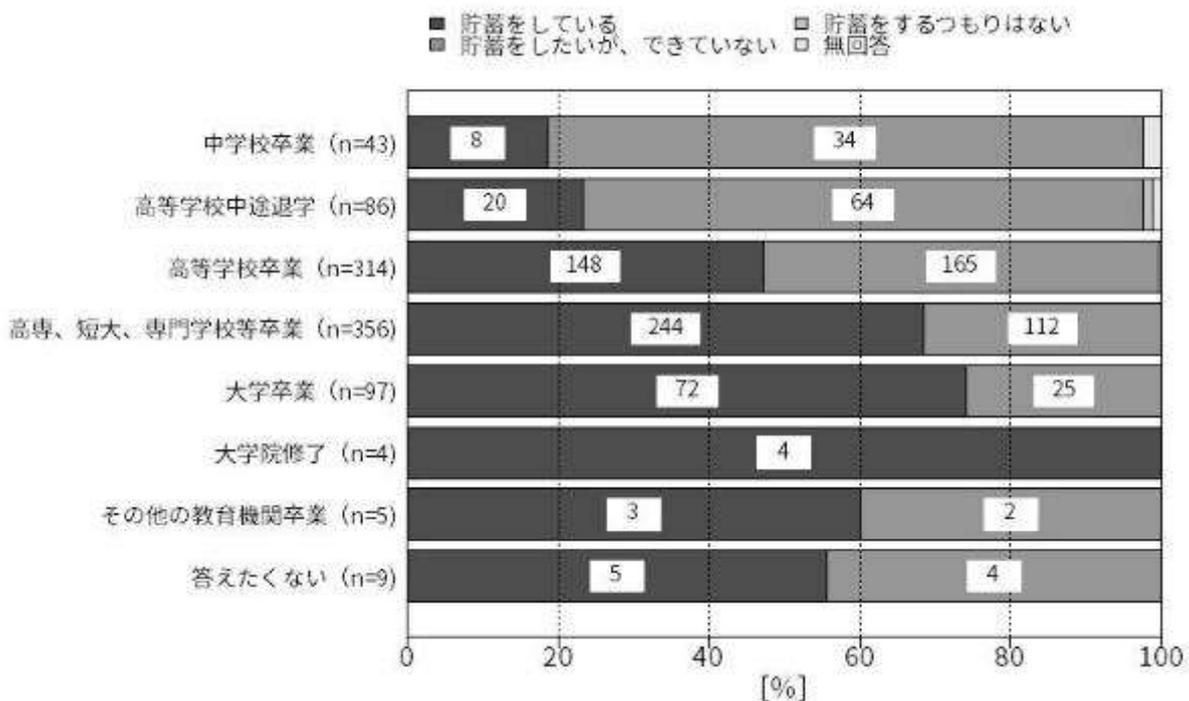
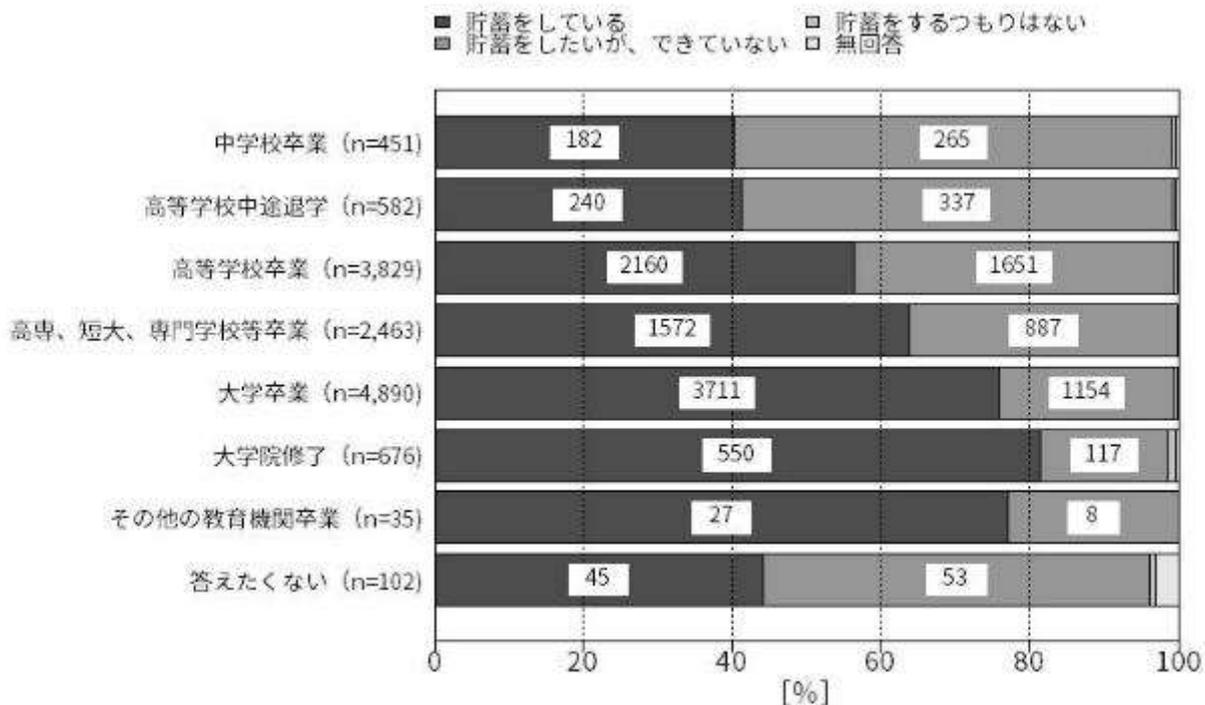


図 118. 母親の最終学歴別に見た、子どものための貯蓄

中学校卒業、高等学校中途退学では、子どものための貯蓄ができていない割合が少ない傾向にあった。学歴が高いほど、貯蓄ができていない割合が高くなる。

父親の最終学歴別に見た、子どものための貯蓄（問7×問5-3）

<大阪市24区>



<大阪市平野区>

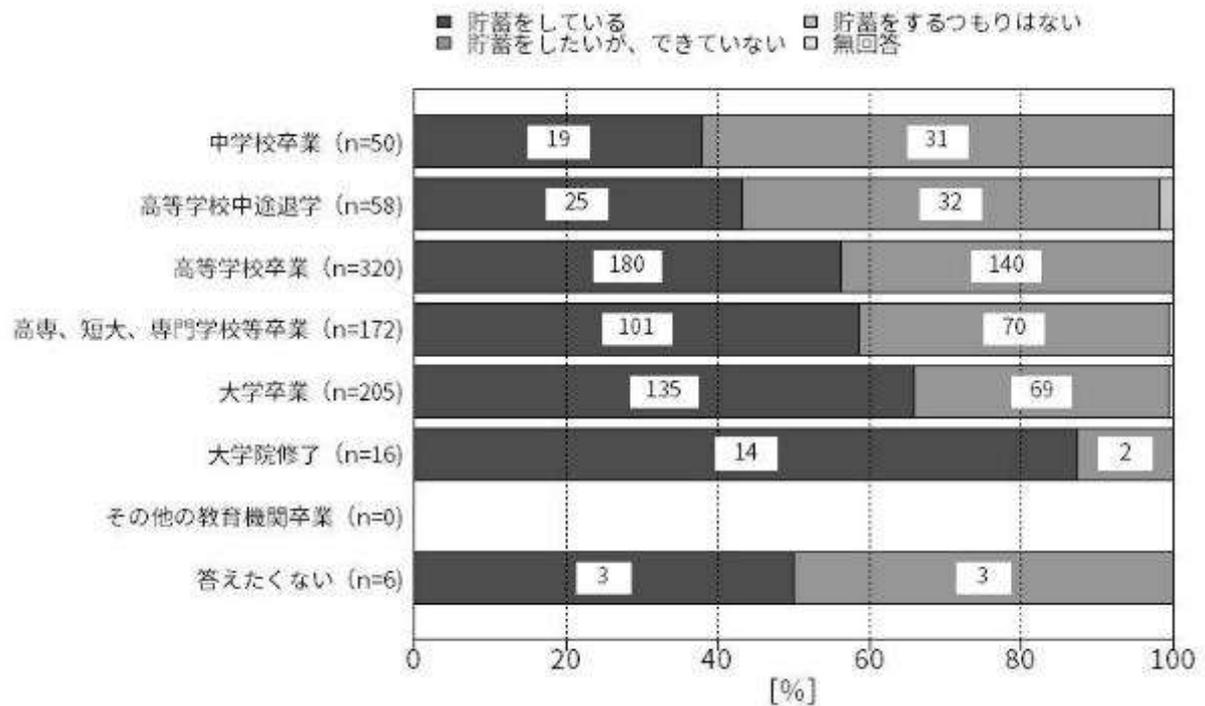


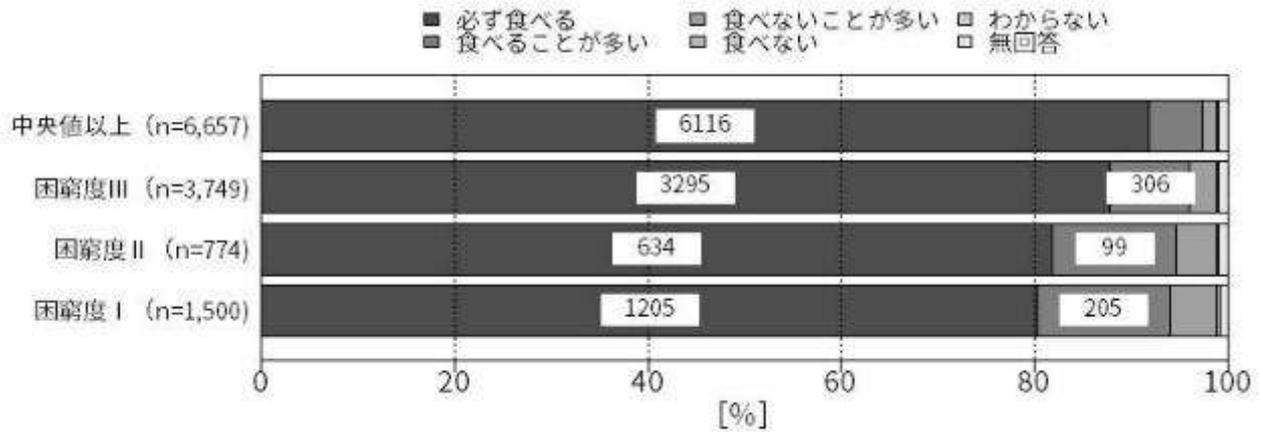
図 119. 父親の最終学歴別に見た、子どものための貯蓄

中学校卒業、高等学校中途退学では、子どものために貯蓄ができていない割合が少ない傾向にあった。学歴が高いほど、貯蓄ができていない割合が高くなる。

3-3. 健康

困窮度別に見た、朝食の頻度（問 17）

<大阪市 24 区>



<大阪市平野区>

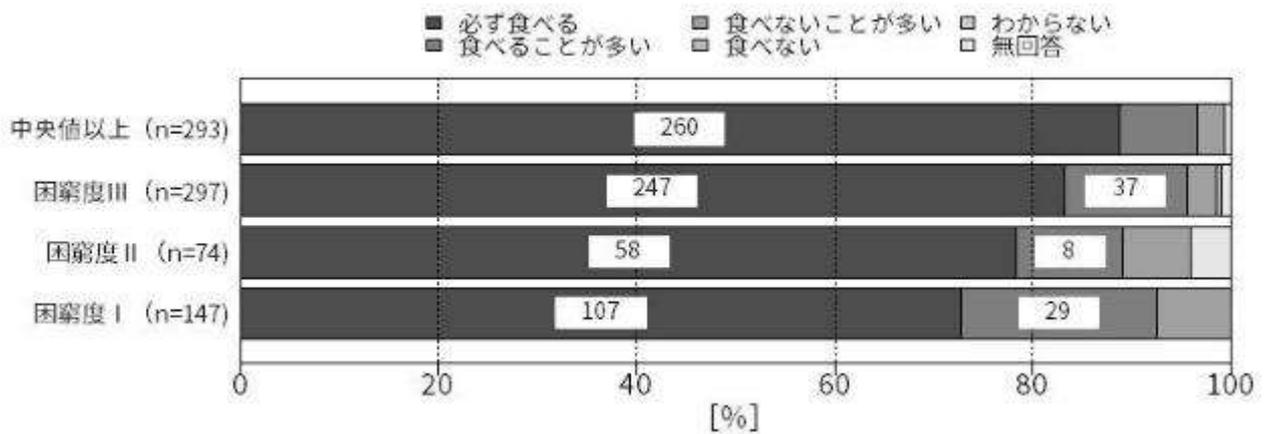
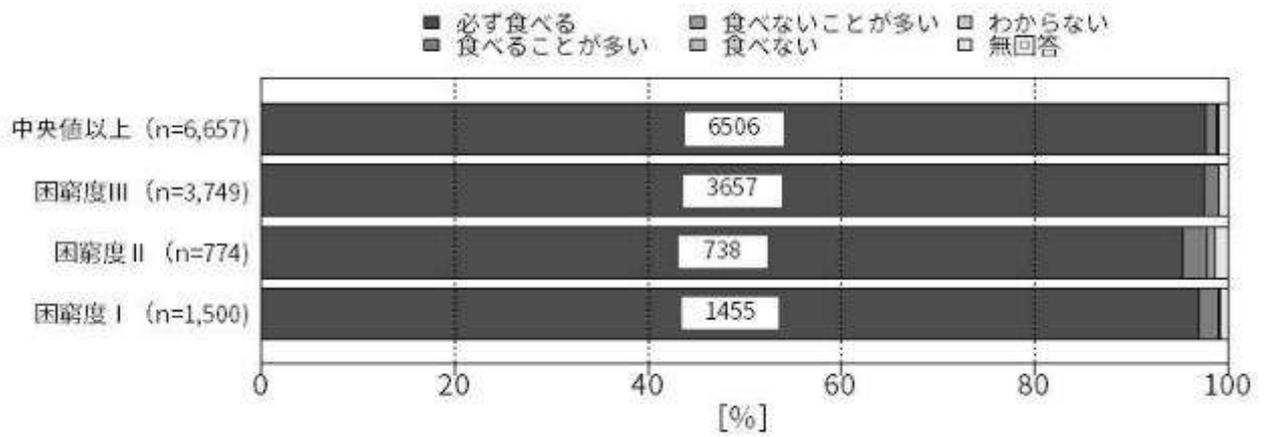


図 120. 困窮度別に見た、朝食の頻度

困窮度が厳しくなるにしたがって、「必ず食べる」の割合が低くなる傾向にあり、困窮度Ⅰ群においては72.8%となっている。

困窮度別に見た、夕食の頻度（問 20）

<大阪市 24 区>



<大阪市平野区>

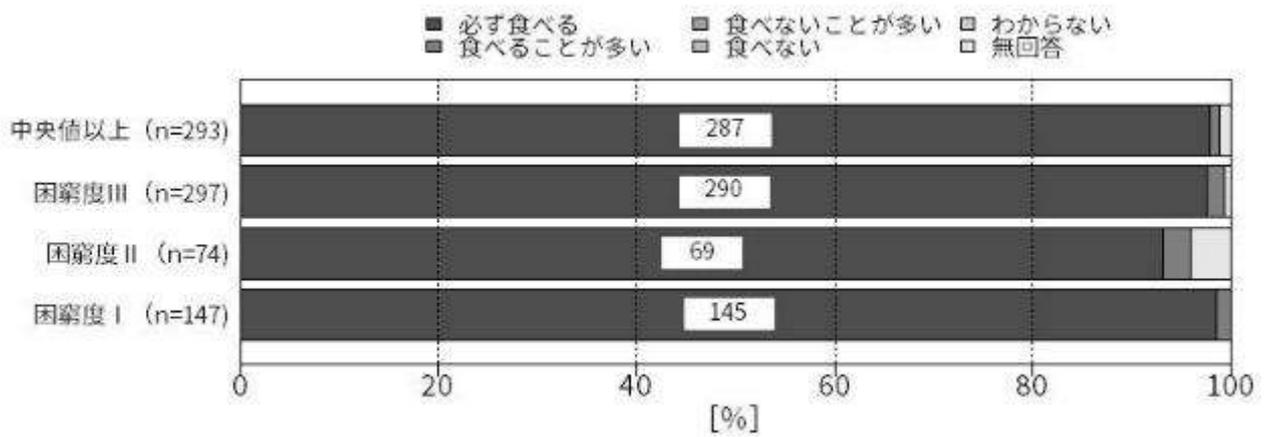
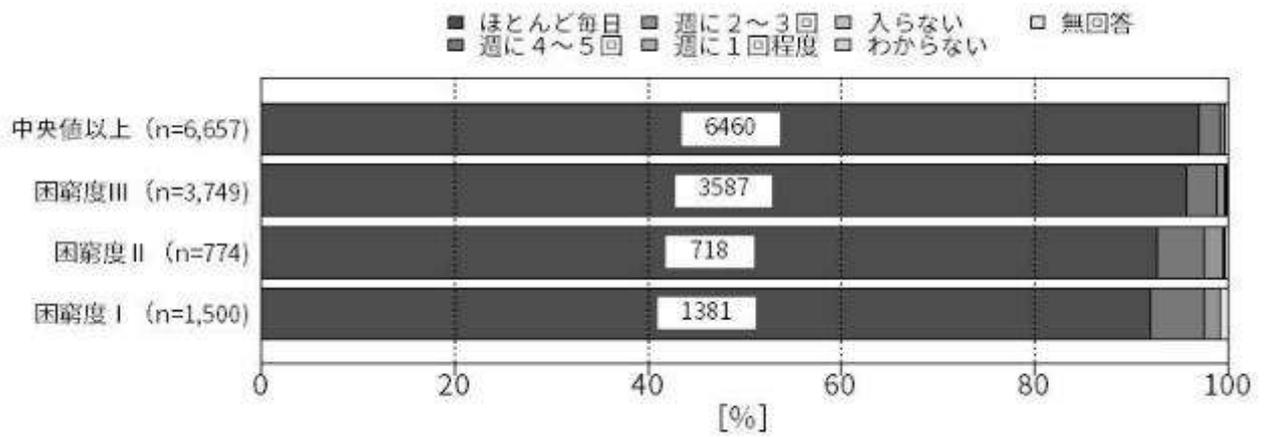


図 121. 困窮度別に見た、夕食の頻度

困窮度によって、大きな差は見られなかった。

困窮度別に見た、入浴頻度（問 23）

<大阪市 24 区>



<大阪市平野区>

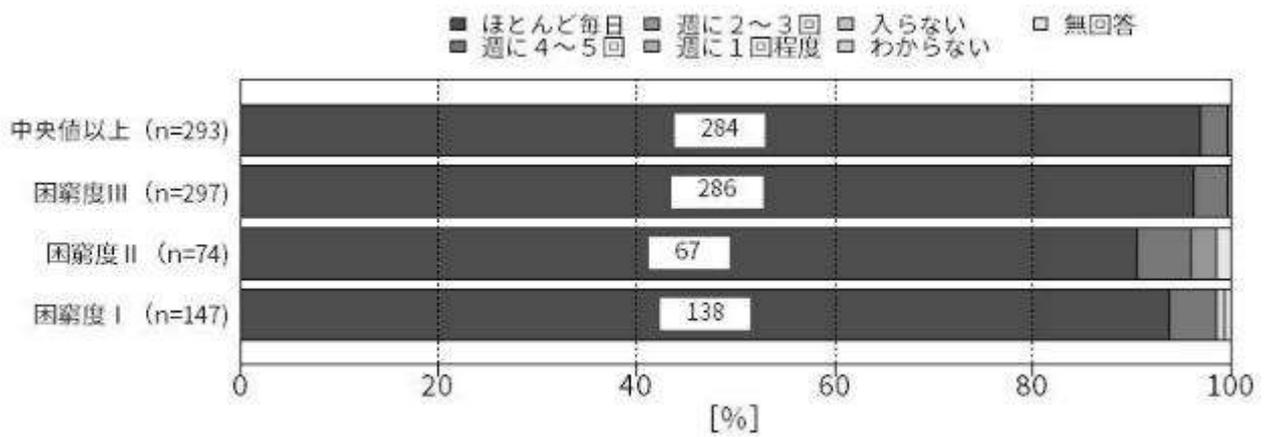
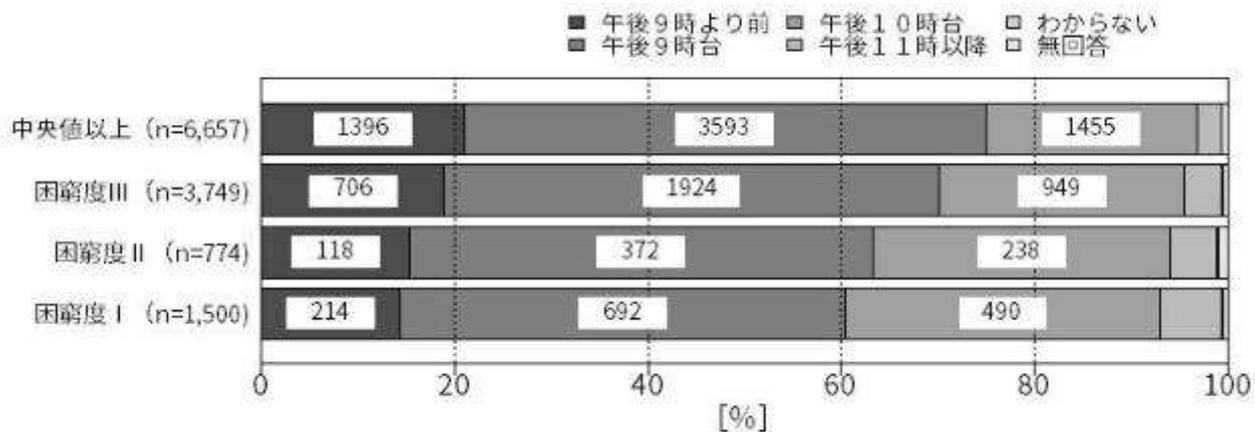


図 122. 困窮度別に見た、入浴頻度

困窮度が厳しくなるにしたがって、お風呂にほとんど毎日入る頻度が低くなる傾向にあり、困窮度Ⅰ群においては93.9%となっている。

困窮度別に見た、就寝時間（問 16）

<大阪市 24 区>



<大阪市平野区>

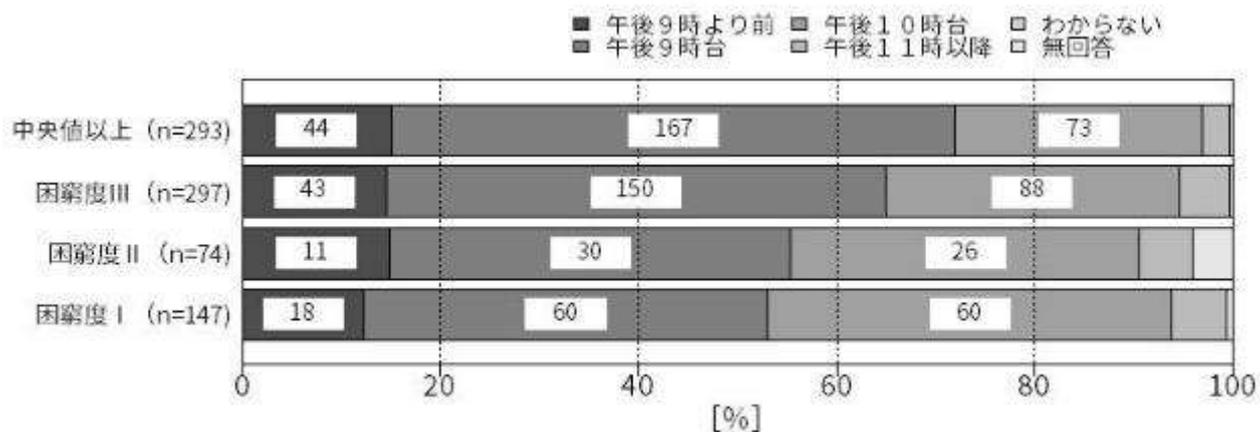
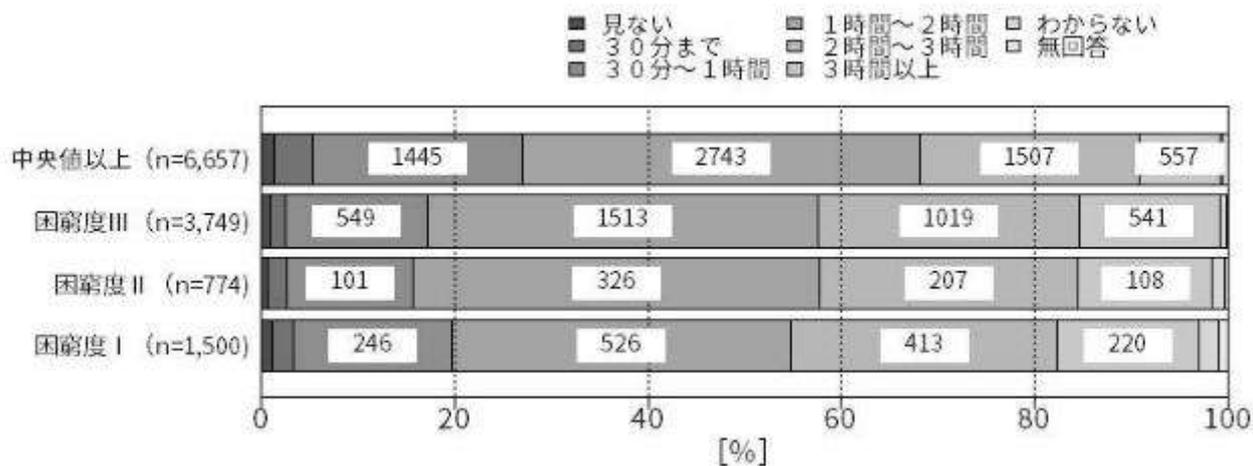


図 123. 困窮度別に見た、就寝時間

困窮度が厳しくなるにしたがって、就寝時間が遅くなる傾向にあった。困窮度Ⅰ群においては午後10時台と回答した割合がやや高く、40.8%となっている。

困窮度別に見た、テレビ視聴時間（問 24）

<大阪市 24 区>



<大阪市平野区>

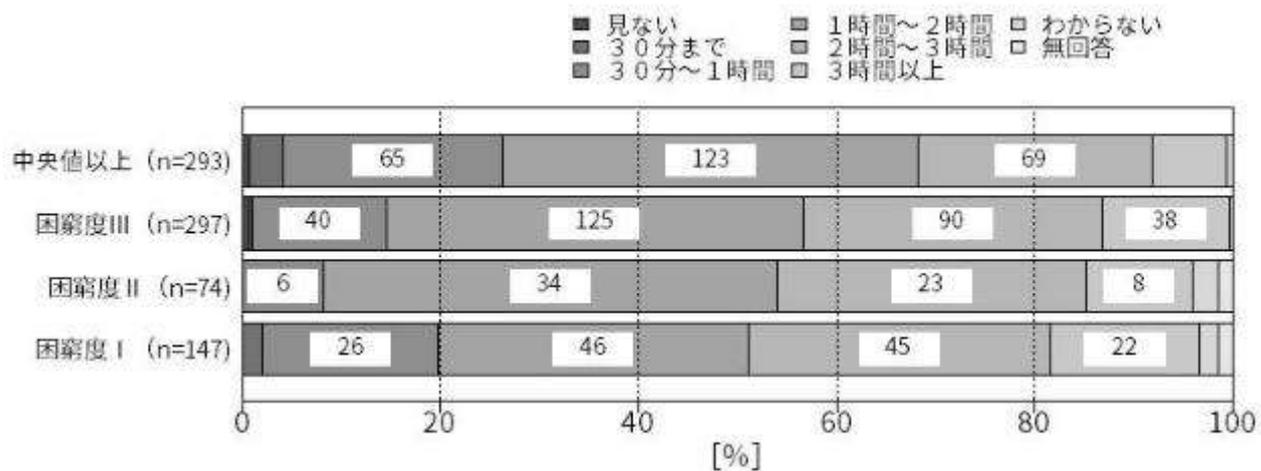
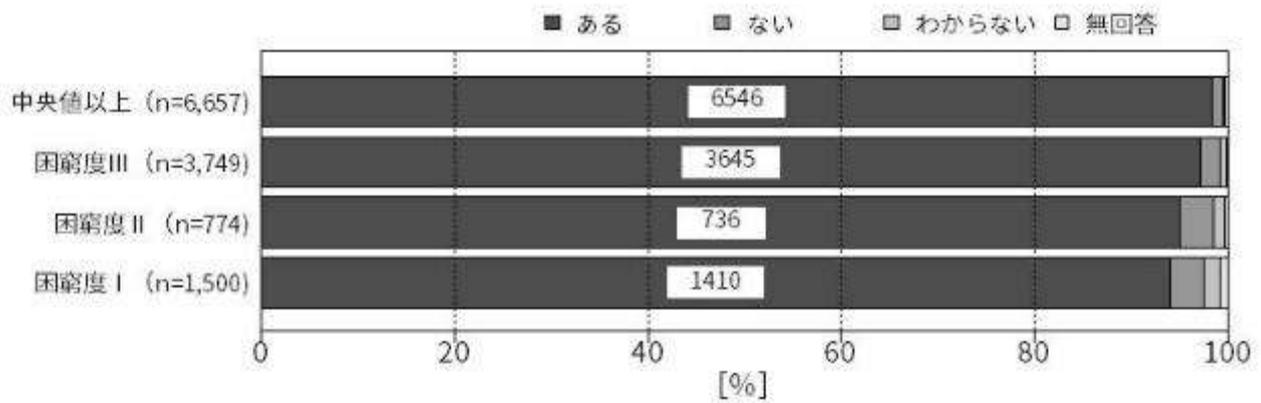


図 124. 困窮度別に見た、テレビ視聴時間

困窮度が厳しくなるにしたがって、視聴時間が長くなる傾向にあった。中央値以上群では「見ない」～「1時間～2時間」の回答を選択した割合が高く、約 7 割となっている。

困窮度別に見た、歯磨きの習慣（問 25）

<大阪市 24 区>



<大阪市平野区>

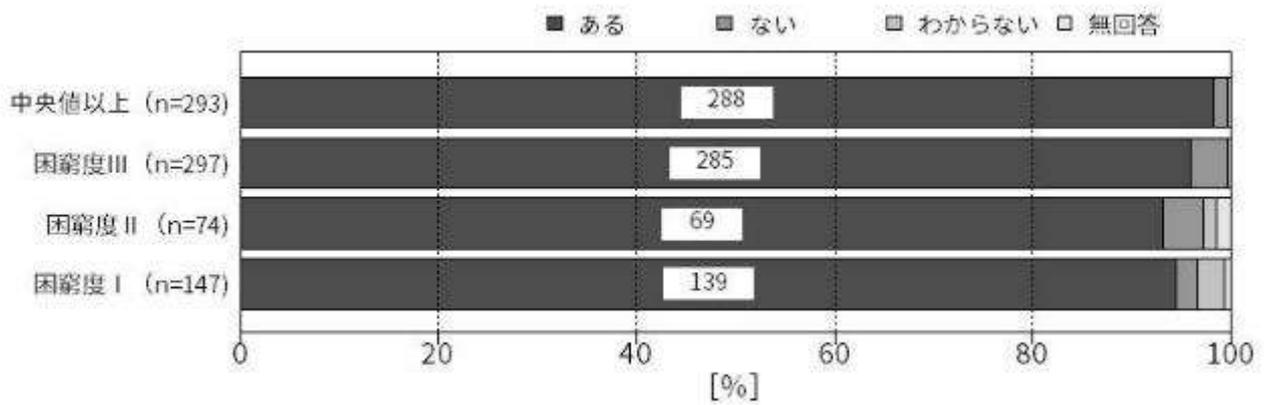
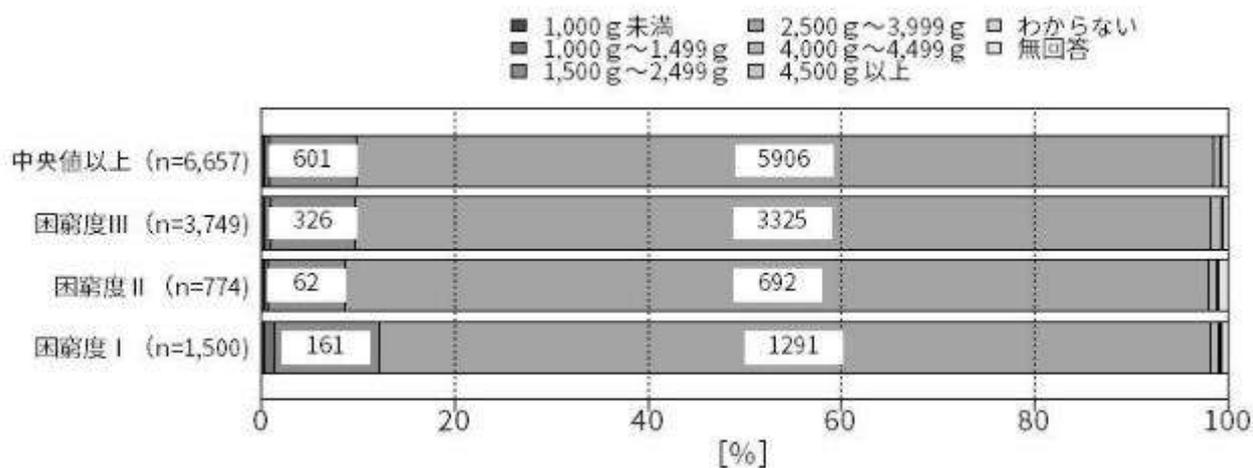


図 125. 困窮度別に見た、歯磨きの習慣

困窮度が厳しくなるにしたがって、歯磨きの習慣が「ある」の割合が低くなる傾向にあった。

困窮度別に見た、出生時体重（問 11）

<大阪市 24 区>



<大阪市平野区>

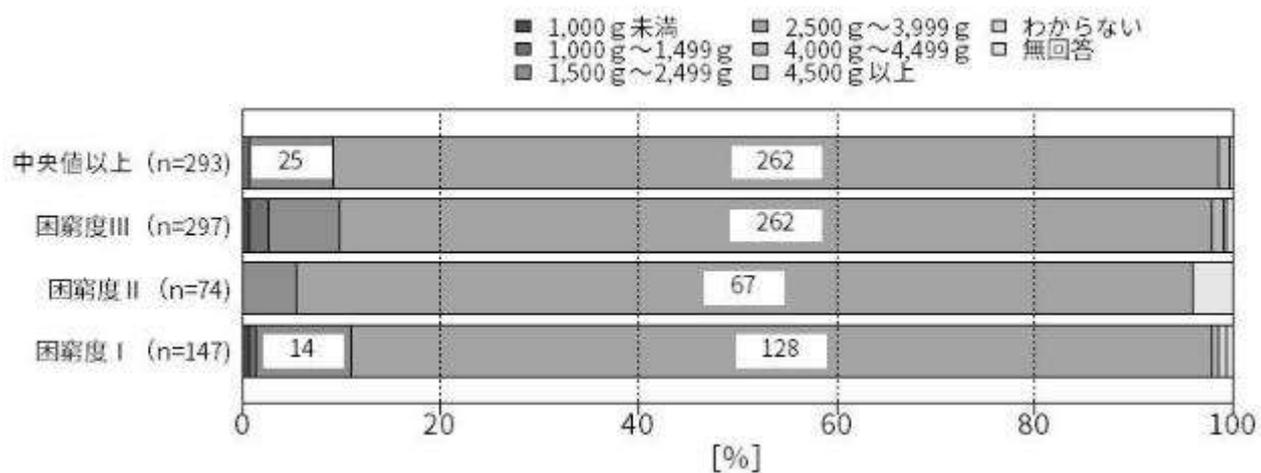
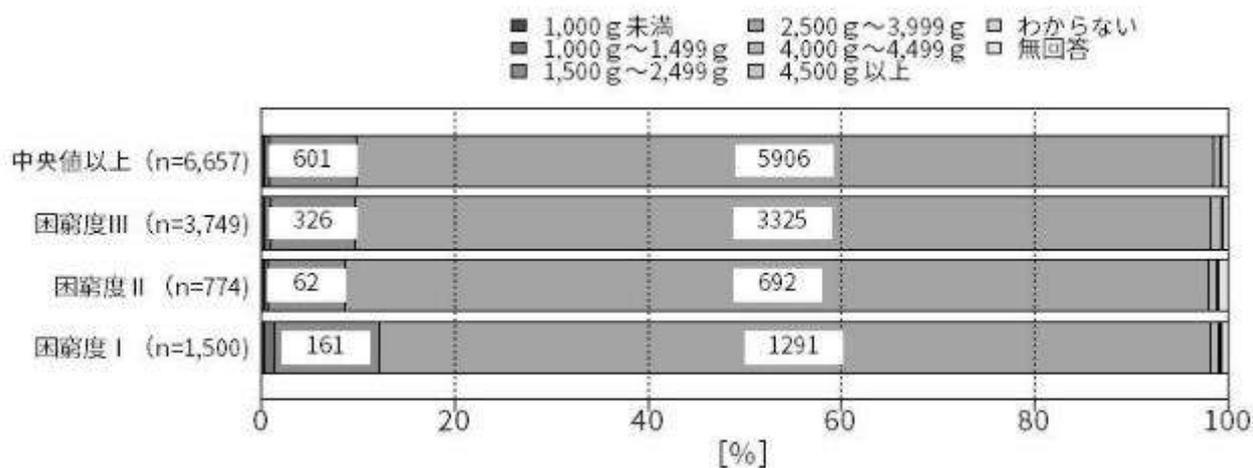


図 126. 困窮度別に見た、出生時体重

困窮度が厳しくなるにしたがって、出生時の体重が低くなる傾向にあった。困窮度Ⅰ群において「1,000 g ~ 1,499 g」「1,500 g ~ 2,499 g」と回答した割合は合計 10.2%であった。

困窮度別に見た、現在の体重（問 13-1）＜男子＞

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市平野区＞

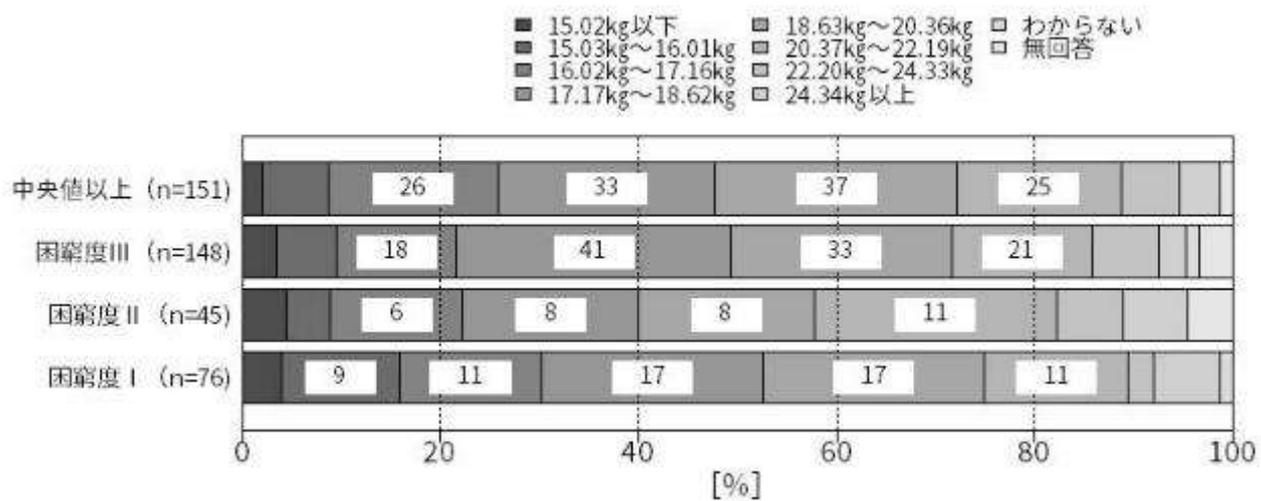
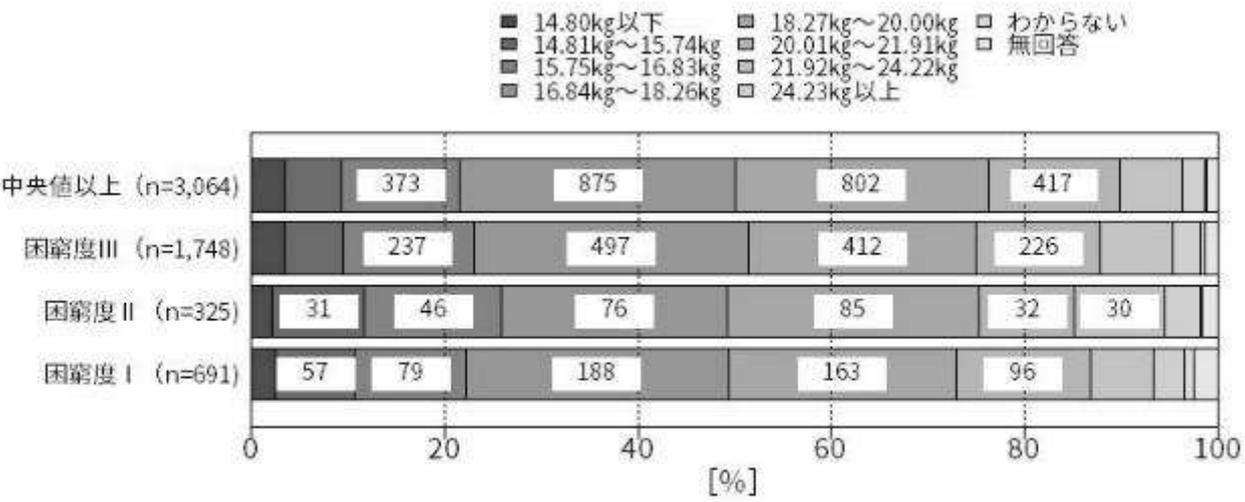


図 127. 困窮度別に見た、現在の体重＜男子＞

困窮度が高まるにつれて、現在の体重（男子）は「15.02kg 以下」が多くなった。

困窮度別に見た、現在の体重（問 13-2）＜女子＞

<大阪市 24 区>



<大阪市平野区>

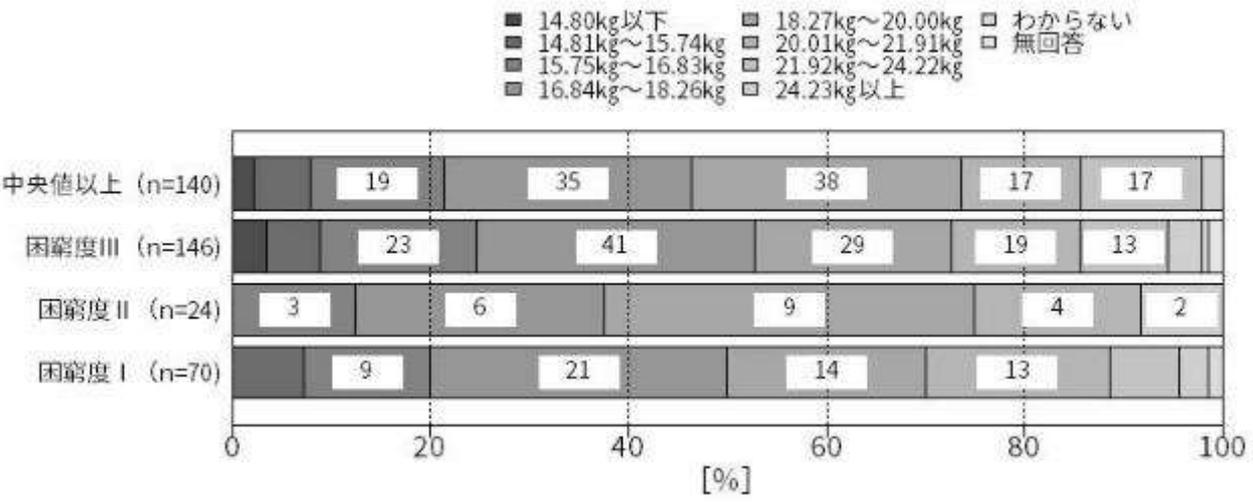
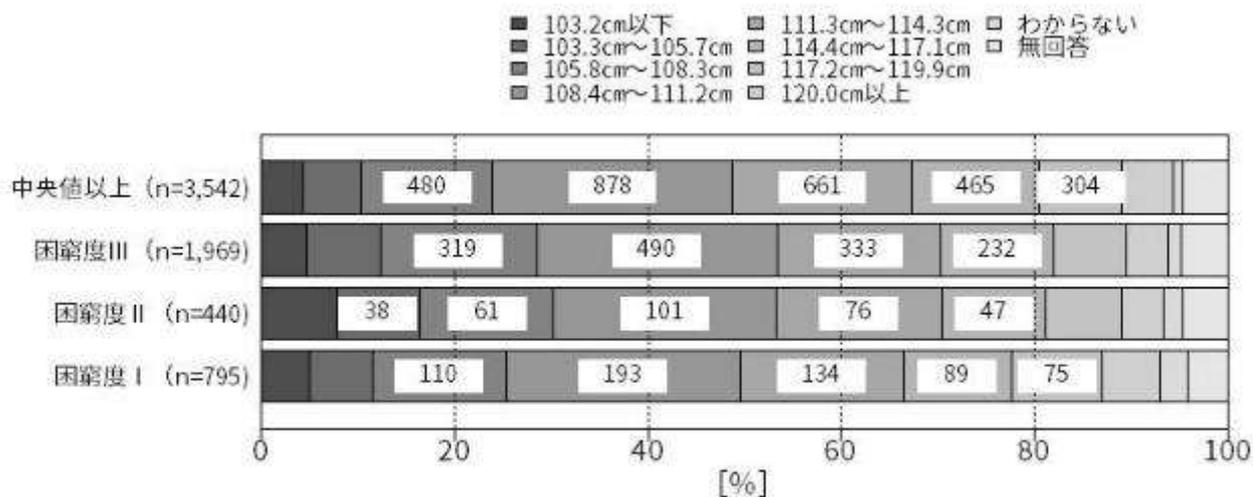


図 128. 困窮度別に見た、現在の体重＜女子＞

困窮度と現在の体重（女子）に関係は見られなかった。

困窮度別に見た、現在の身長（問 14-1）＜男子＞

<大阪市 24 区>



<大阪市平野区>

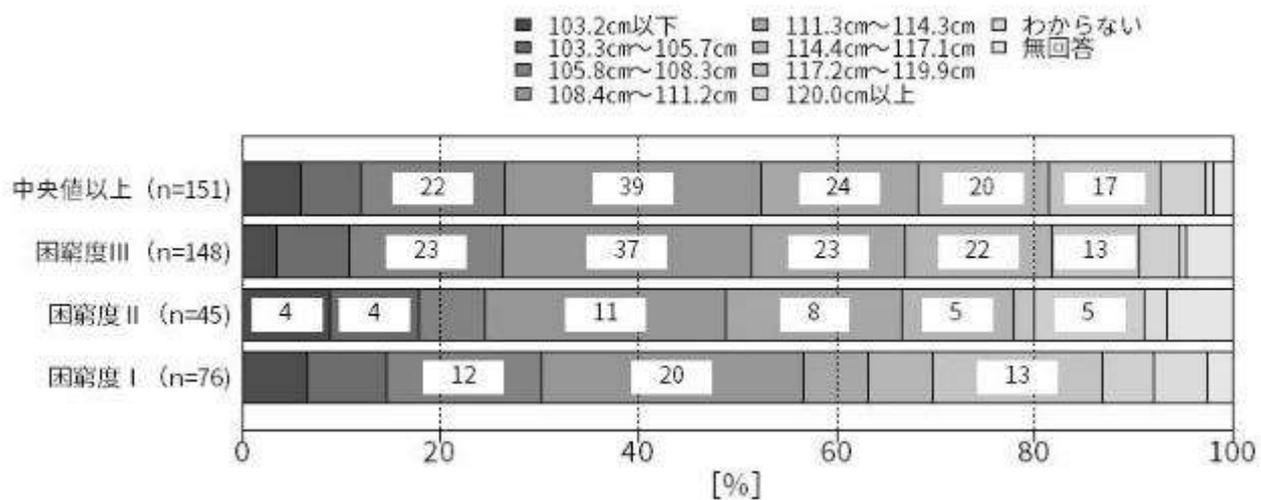
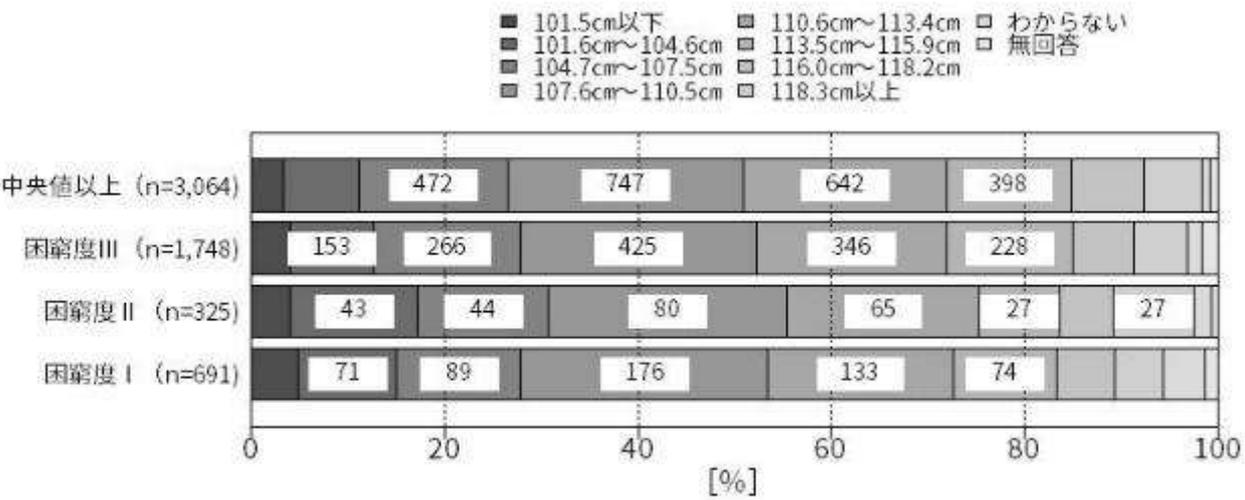


図 129. 困窮度別に見た、現在の身長＜男子＞

困窮度が厳しくなるにしたがって、現在の身長が低い男子の割合が高くなる傾向にあった。

困窮度別に見た、現在の身長（問 14-2）＜女子＞

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市平野区＞

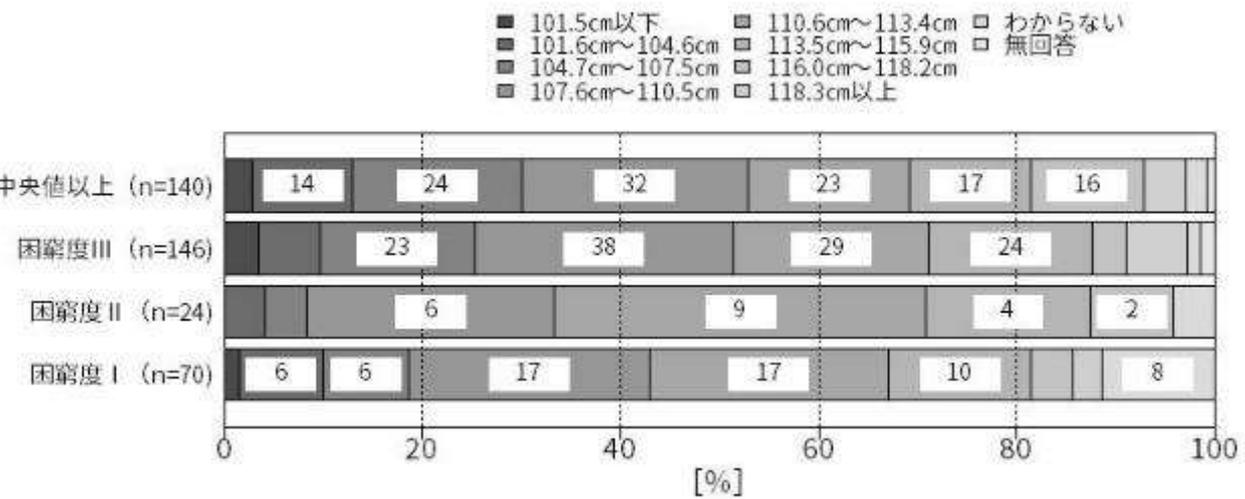
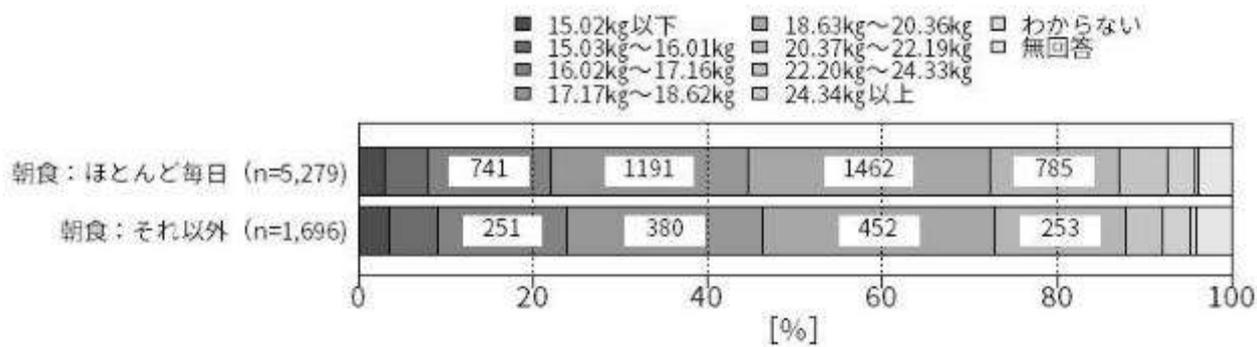


図 130. 困窮度別に見た、現在の身長＜女子＞

困窮度による大きな差は見られなかった。

朝食の頻度別に見た、現在の体重（問 17×問 13-1）

<大阪市 24 区>



<大阪市平野区>

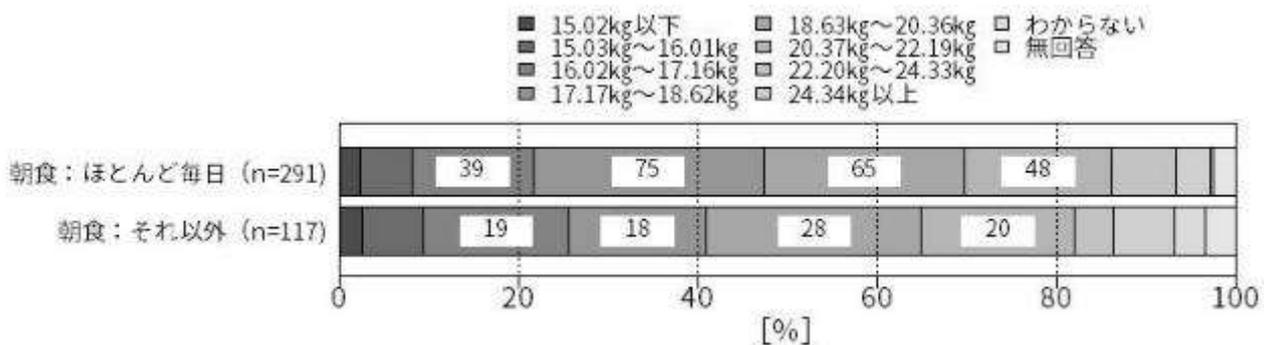
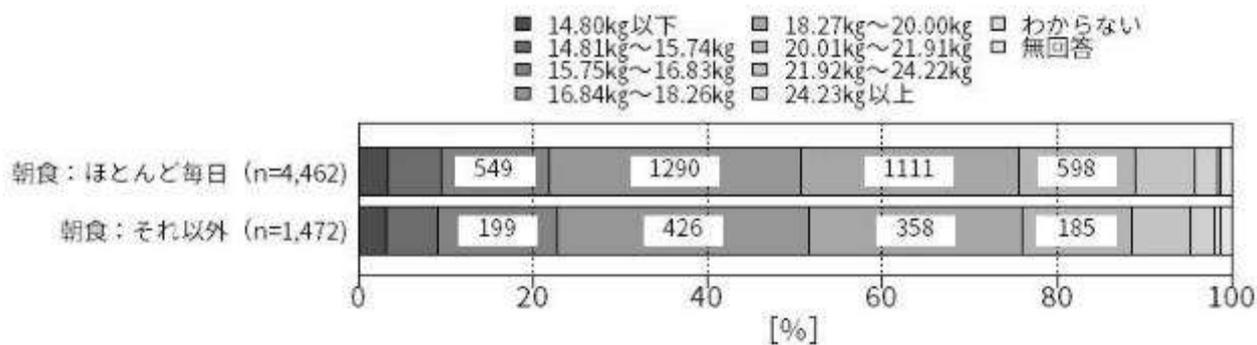


図 131. 朝食の頻度別に見た、現在の体重

朝食をほとんど毎日食べない男子は、体重が少ない割合が高くなる傾向にあった。

朝食の頻度別に見た、現在の体重（問 17×問 13-2）

<大阪市 24 区>



<大阪市平野区>

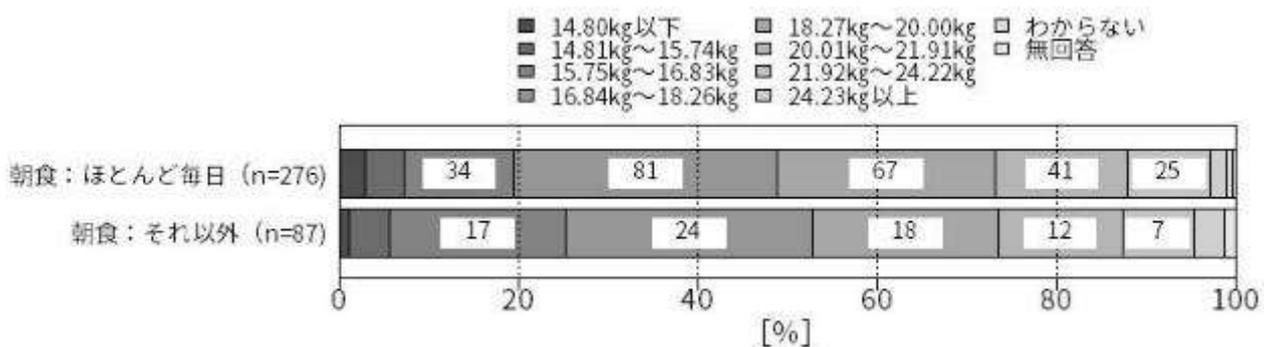
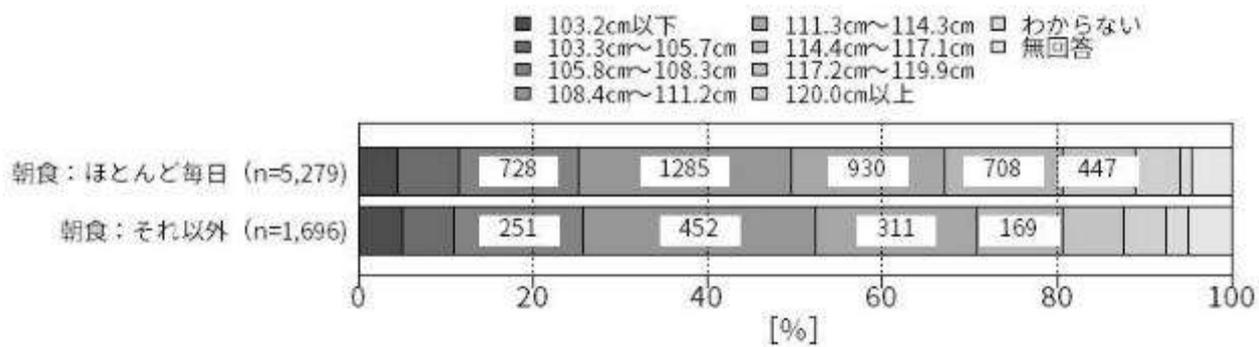


図 132. 朝食の頻度別に見た、現在の体重

朝食の頻度と女子の体重に関係は見られなかった。

朝食の頻度別に見た、現在の身長（問 17×問 14-1）

<大阪市 24 区>



<大阪市平野区>

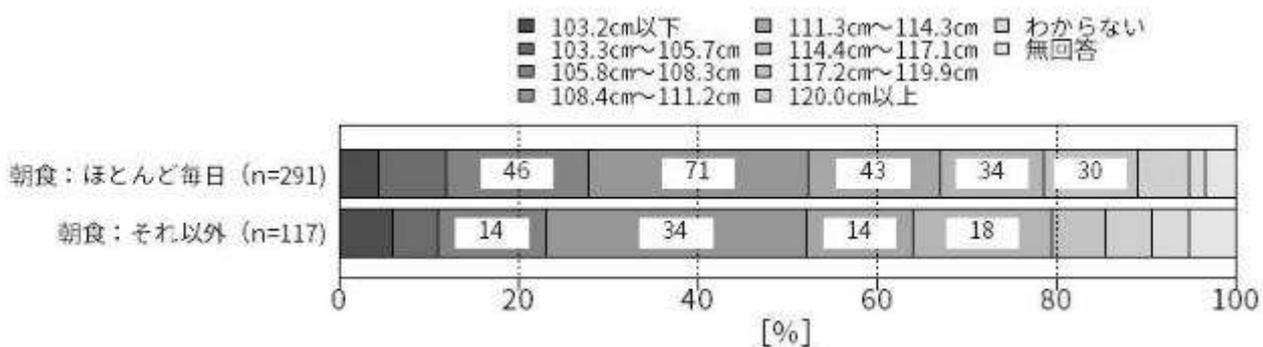


図 133. 朝食の頻度別に見た、現在の身長

朝食の頻度と男子の身長に関係は見られなかった。